

—第 1 回和光市長寿あんしんプラン策定会議資料—

高齢者等の現状

令和2年7月

和 光 市

<目 次>

I 高齢者の現状	1
1 年齢別人口.....	1
2 地区別高齢者数.....	2
3 地区別ひとり暮らし・2人暮らし高齢者世帯数.....	3
4 地区別ひとり暮らし高齢者割合.....	4
5 人口の推移・推計.....	5
6 高齢者人口の推計.....	5
7 疾病の動向.....	7
II 要介護(要支援)認定者の現状	9
1 認定者数・認定率の推移.....	9
2 地区別認定者数.....	10
3 年齢階級別認定率.....	11
4 要介護(要支援)認定者数の推計.....	13
III 介護保険事業の現状	14
1 全体の利用状況.....	14
2 居宅サービス.....	17
3 地域密着型サービス.....	20
4 施設サービス.....	23
5 計画との比較.....	26

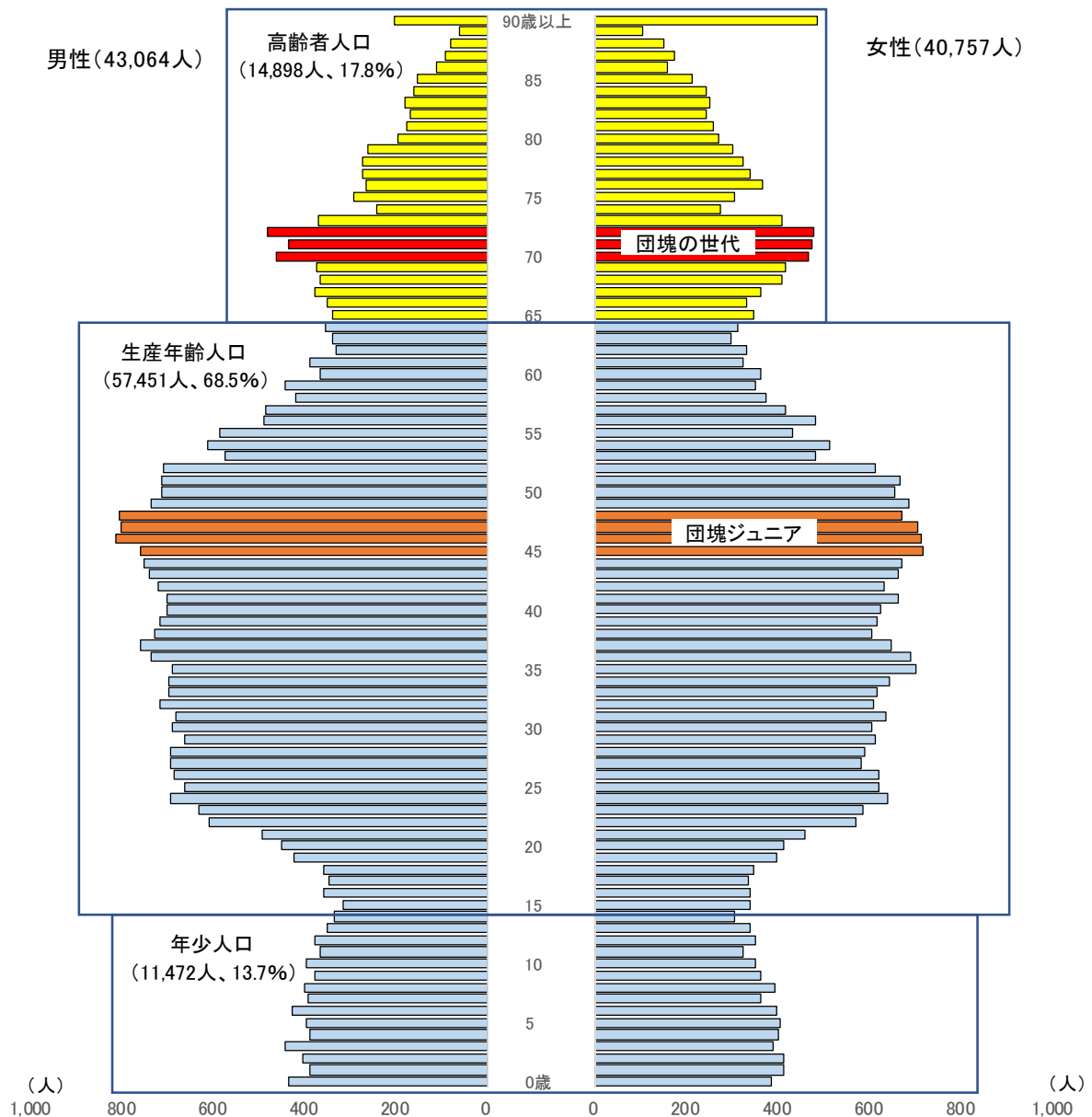
I 高齢者の現状

1 年齢別人口

令和2年3月末現在の和光市の人口は、83,821人（男性43,064人、女性40,757人）となっています（和光市「住民基本台帳」）。

年齢区分ごとにその構成比みると、年少人口（0～14歳）が13.7%、生産年齢人口が68.5%、高齢者人口が17.8%と、全国的にみると高齢化率はかなり低くなっています。

図表 和光市の人口ピラミッド



資料：和光市「住民基本台帳」（令和2年3月31日現在）

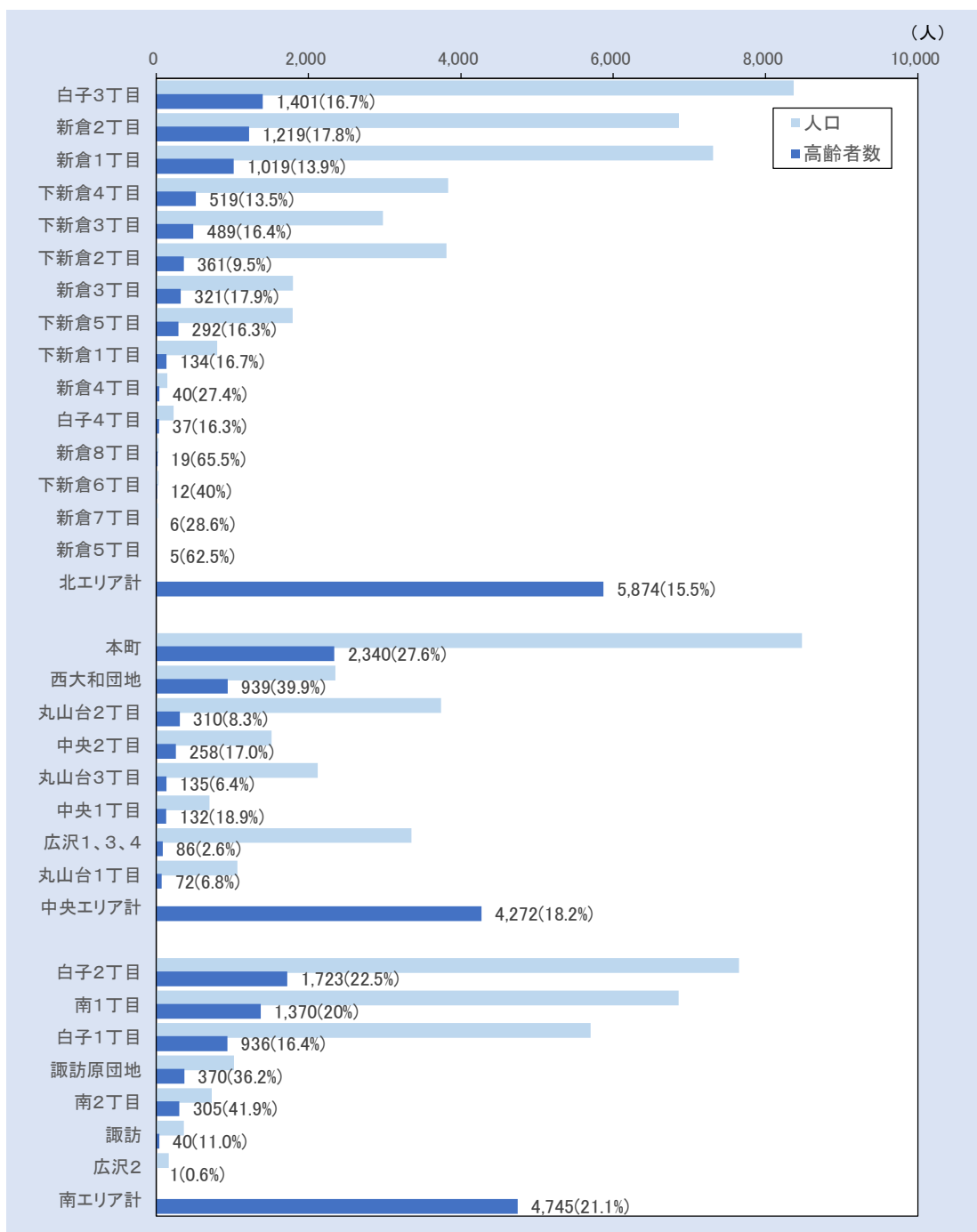
2 地区別高齢者数

地区（町丁）別の高齢者数をみると、最も多いのは本町（2,340人）で、次いで白子2丁目、白子3丁目、南1丁目、新倉2丁目、新倉1丁目が1,000人以上で続いています。

高齢者数が100人以上で高齢化率が高いのは、南2丁目（41.9%）、西大和団地（39.9%）、諏訪原団地（36.2%）となっており、いわゆる団地における高齢化が顕著となっています。

エリア別にみると、北エリアが5,874人で最も高齢者数が多く、次いで南エリア（4,745人）、中央エリア（4,272人）の順となっています。

図表 地区別高齢者数・人口



資料：和光市「住民基本台帳」（令和2年3月31日現在）

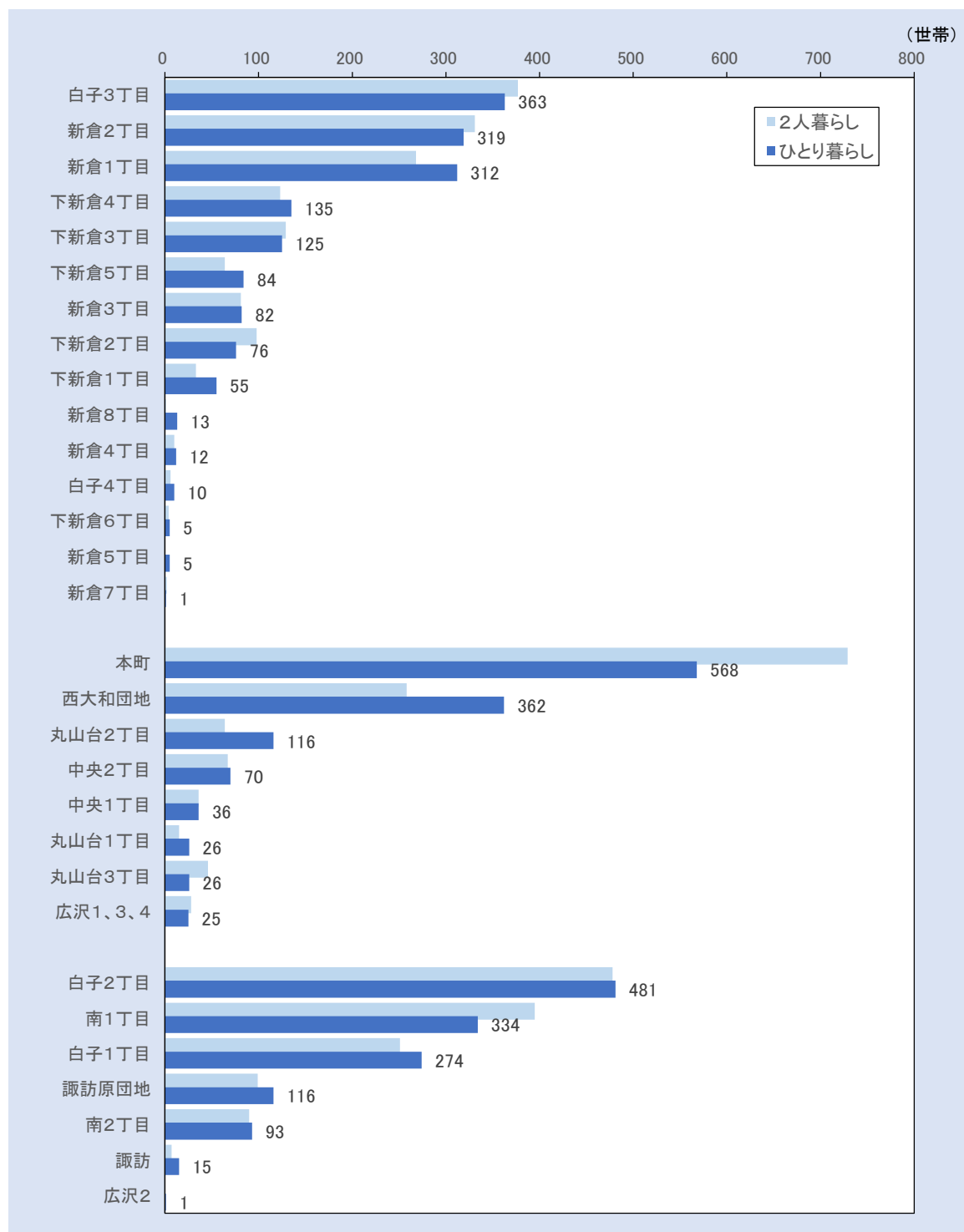
注：グラフ中の（ ）内は高齢化率

3 地区別ひとり暮らし・2人暮らし高齢者世帯数

地区別にひとり暮らし高齢者の世帯数をみると、最も多いのは高齢者数の多い本町（568世帯）で、次いで白子2丁目、白子3丁目、西大和団地などが続いています。

2人暮らし高齢者の世帯も、ひとり暮らし高齢者世帯が多い地区で多くなっています。

図表 地区別ひとり暮らし・2人暮らし高齢者世帯数

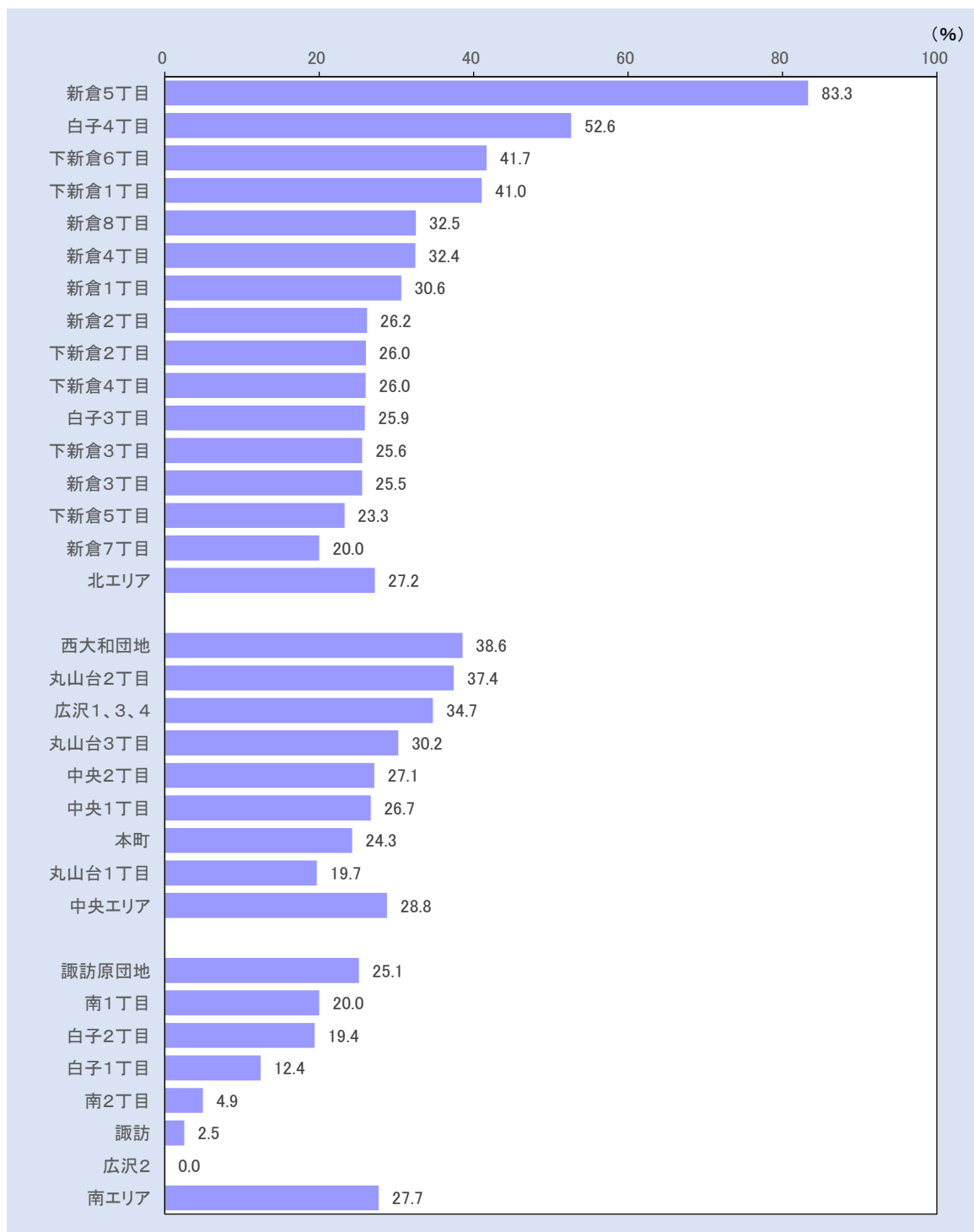


資料：和光市「住民基本台帳」（令和2年3月31日現在）

4 地区別ひとり暮らし高齢者割合

高齢者全体に占めるひとり暮らしの割合をみると、新倉5丁目、白子4丁目、下新倉6丁目、下新倉1丁目、西大和団地（38.6%）、丸山台2丁目（37.4%）も4割近くとなっています。

図表 地区別ひとり暮らし高齢者割合

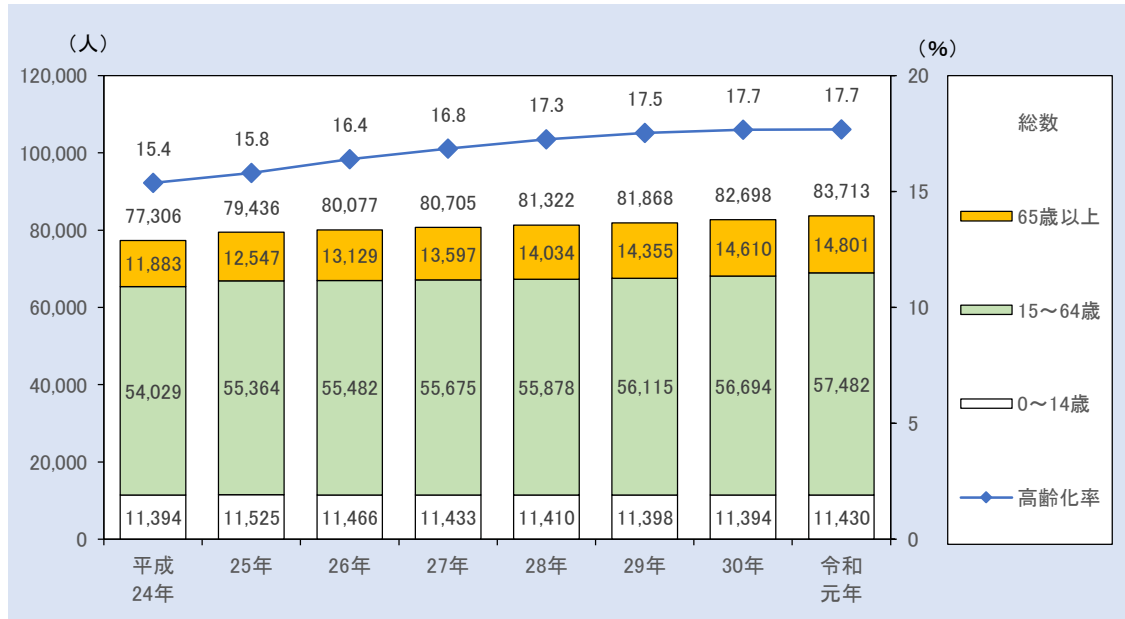


5 人口の推移・推計

和光市の人口は、これまでに比べると増加ペースが鈍ってきていますが、現在も人口増加が続いています。年齢区分ごとにみると、年少人口（0～14歳）はほぼ横ばい、生産年齢人口（15～64歳）、高齢者人口は増加傾向となっています。

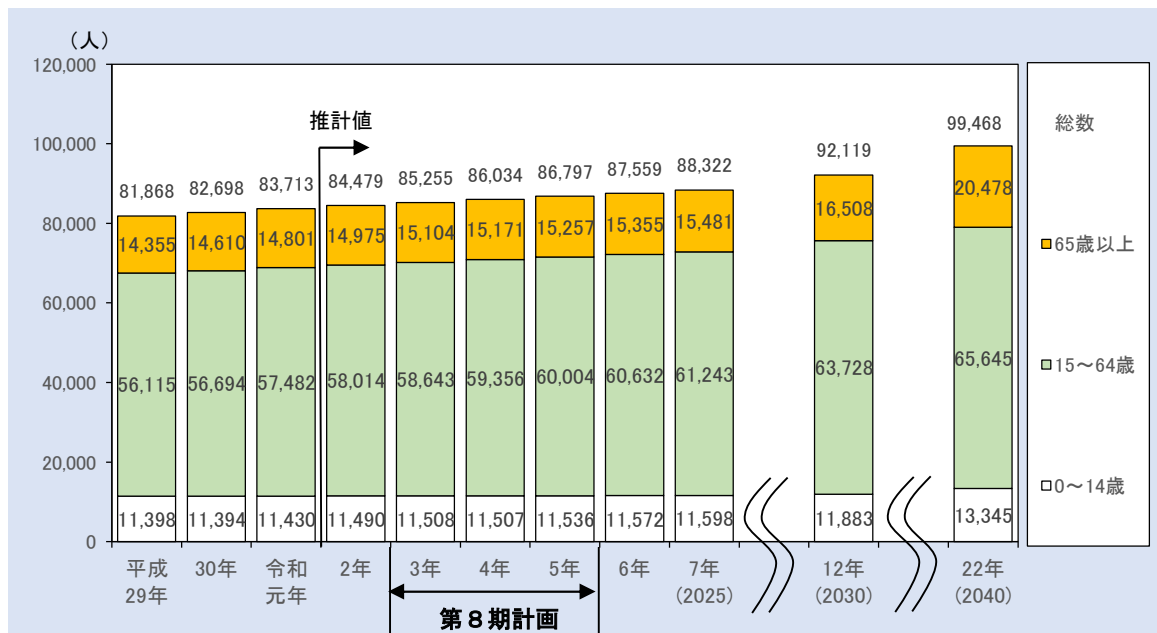
市の将来人口をコーホート変化率法により推計すると、当面は、毎年700～800人程度の人口増加が見込まれています。

図表 人口の推移



資料：和光市「住民基本台帳」（各年9月末日時点）

図表 人口推計結果



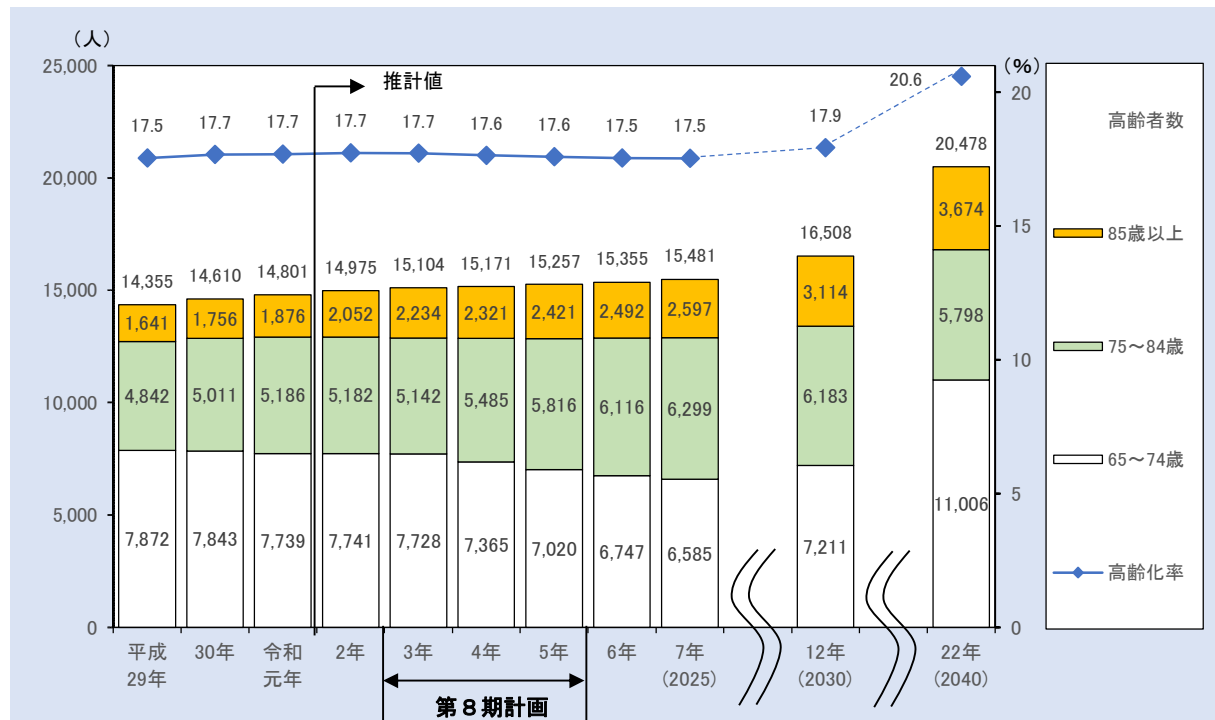
資料：和光市「住民基本台帳」人口を基礎に、コーホート変化率法により推計（各年9月末日時点）

6 高齢者人口の推計

人口推計結果を高齢者についてみると、団塊の世代が既に高齢者になっていることから、今後5、6年は高齢者数の急激な増加はないものの、介護が必要な世代である75歳以上人口が大きく増える見込みとなっています（比較的元気な74歳以下の前期高齢者は徐々に減少）。

高齢化率は、今後10年程度は17%台半ばで安定しますが、それ以降は急上昇し、令和22（2040）年には20%を超えるものと推計されています。

図表 高齢者人口の推計結果



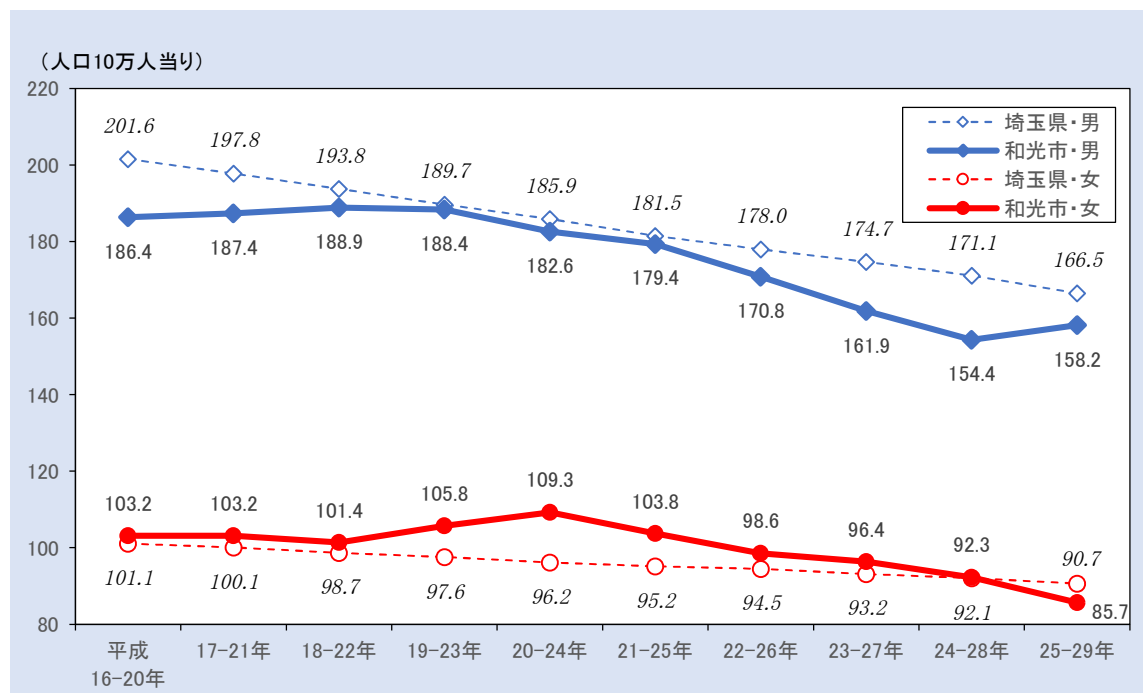
7 疾病の動向

市民の健康状態の指標として、主な生活習慣病である悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の年齢調整死亡率をみると、悪性新生物（がん）は女性でしばらく県の数値を上回ってきたものの、心疾患、脳血管疾患については、埼玉県の数値を長期にわたって下回っています。

ただ、心疾患については、男性でこのところ死亡率の上昇傾向が続いています。

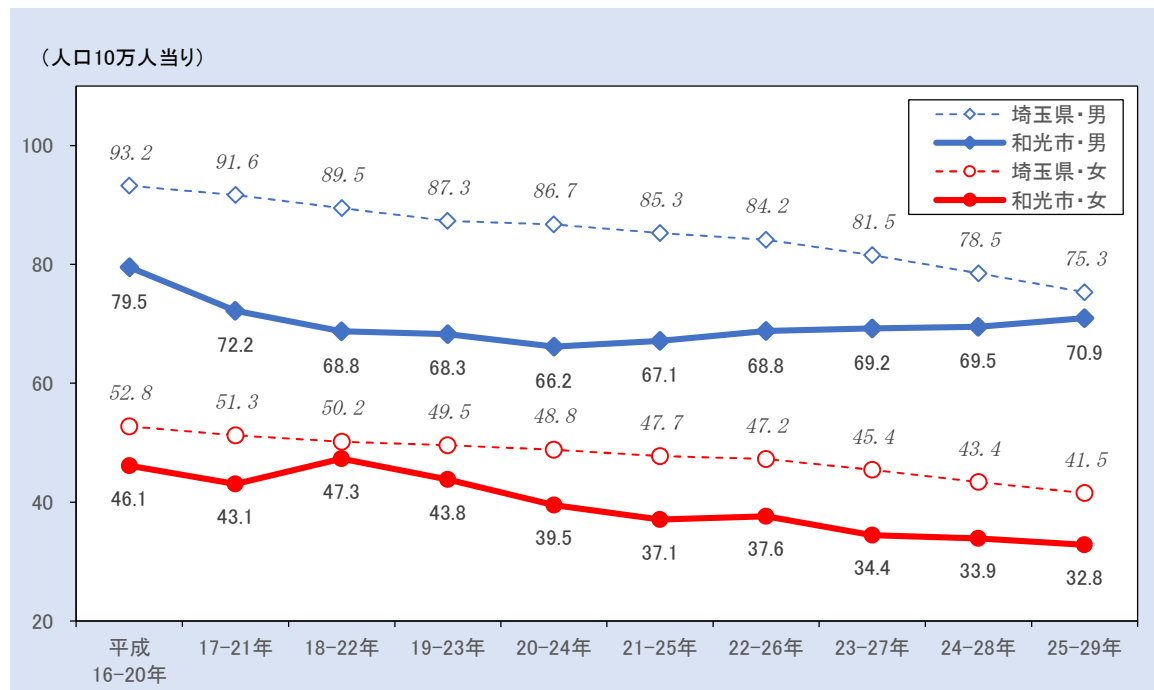
図表 疾病別年齢調整死亡率

①悪性新生物

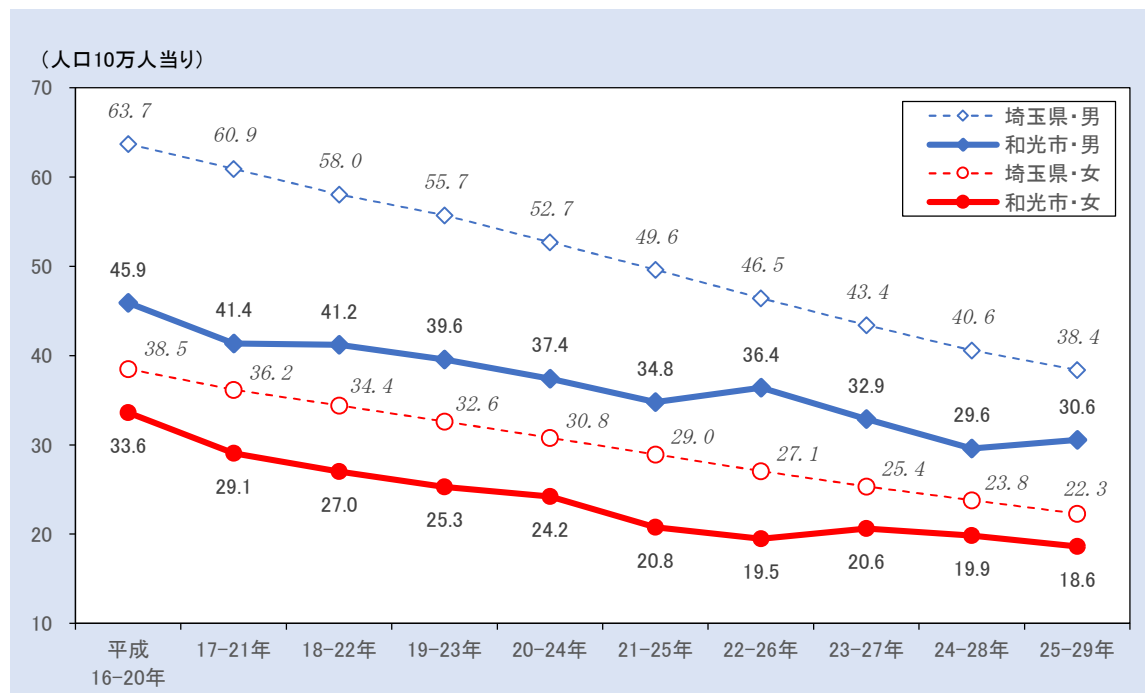


資料：埼玉県衛生研究所資料から作成（以下年齢調整死亡率については同じ）

②心疾患



③脳血管疾患



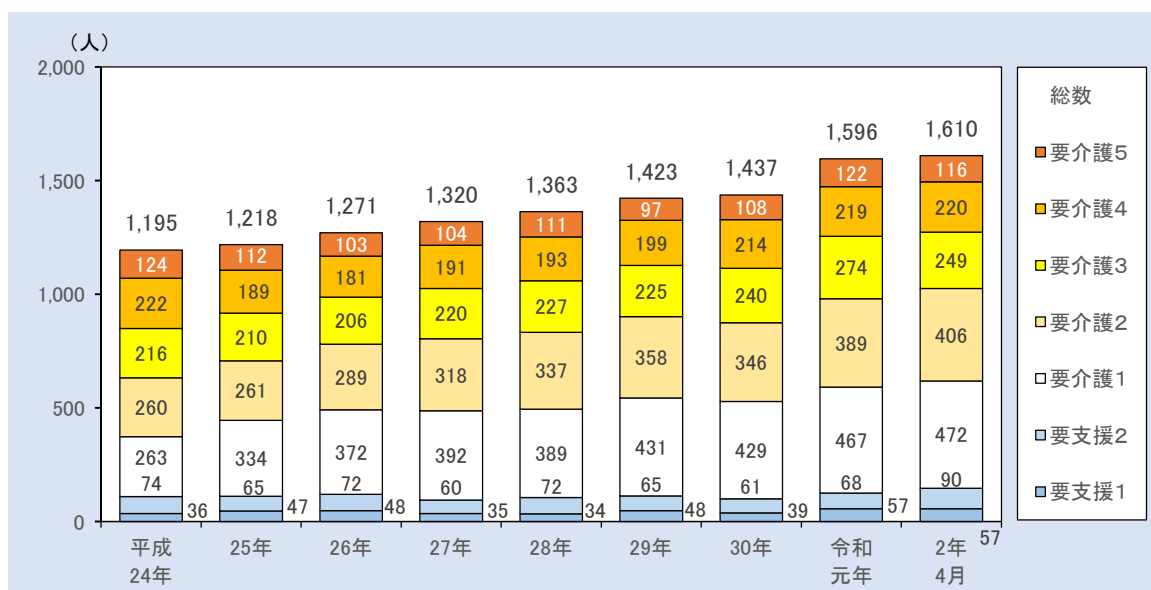
Ⅱ 要介護(要支援)認定者の現状

1 認定者数・認定率の推移

要介護(要支援)認定者数の推移をみると、高齢者数の増加とともに増加基調が続いています。要介護度別では、要介護1・2といった軽度者の増加が顕著です。

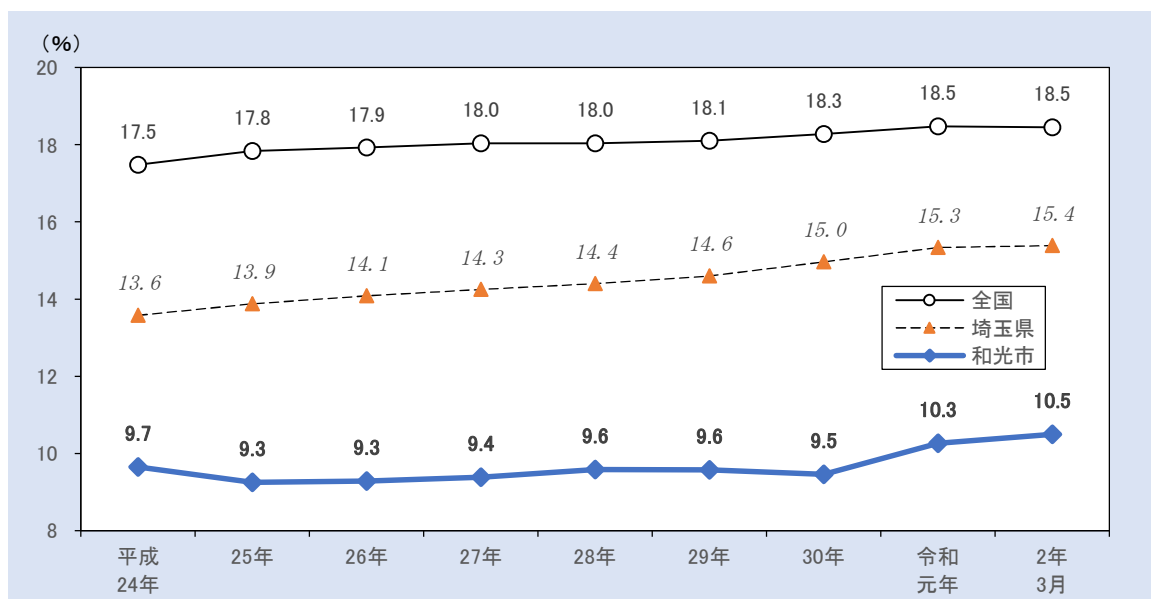
第1号被保険者における、要介護(要支援)認定者数の割合(認定率)は、このところ上昇傾向がみられますが、全国(18.5%)、埼玉県(15.4%)の値を大きく下回っています。

図表 要介護(要支援)認定者の推移



資料:和光市「介護保険事業状況報告」から作成(各年9月末時点)

図表 第一号被保険者の要介護(要支援)認定率の推移



資料:厚生労働省・和光市「介護保険事業状況報告」から作成(各年9月末時点)

2 地区別認定者数

地区別に要介護（要支援）認定者数をみると、最も多いのは本町（205人）で、次いで白子2丁目（196人）、南1丁目（163人）、新倉2丁目（161人）、新倉1丁目（123人）、白子3丁目（121人）、白子1丁目（107人）などが続いています。

エリア別では、北エリアが636人で最も多く、次いで南エリア（553人）、中央エリア（438人）の順になっています。

図表 地区別認定者数

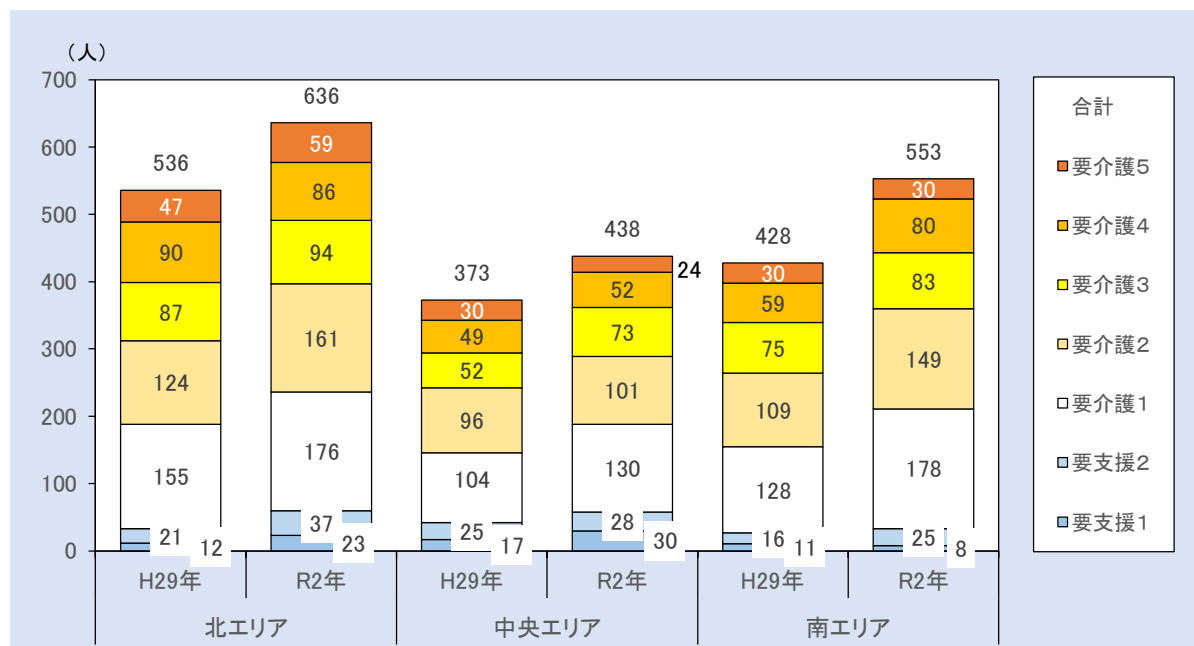
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
白子3丁目	3	9	31	35	17	16	10	121
白子4丁目	1							1
新倉1丁目	7	10	39	29	18	14	6	123
新倉2丁目	5	9	49	40	30	16	12	161
新倉3丁目		3	8	12	2	7	3	35
新倉4丁目			1	2			1	4
新倉7丁目					1			1
新倉8丁目			2	2	3	5	1	13
下新倉1丁目			6	4	4	3	4	21
下新倉2丁目	1	1	6	7	7	7	2	31
下新倉3丁目	2	4	14	14	7	6	7	54
下新倉4丁目	2	1	11	13	5	7	9	48
下新倉5丁目	2		9	3		5	4	23
北エリア計	23	37	176	161	94	86	59	636
西大和団地	2	5	44	23	13	10	5	102
本町	23	18	42	44	45	20	13	205
中央1丁目			4	7		3		14
中央2丁目	1	3	11	13	6	4	3	41
丸山台1丁目			3	1	1	1		6
丸山台2丁目	4		21	10	3	8	1	47
丸山台3丁目		2	3	1	1	5		12
広沢			2	2	4	1	2	11
中央エリア計	30	28	130	101	73	52	24	438
南1丁目	3	8	55	45	17	27	8	163
南2丁目		2	12	9	5	6	2	36
白子1丁目	2	4	28	34	18	16	5	107
白子2丁目	3	8	65	44	37	27	12	196
諏訪			1	2	1			4
諏訪原団地		3	17	15	5	4	3	47
南エリア計	8	25	178	149	83	80	30	553

資料：和光市資料から作成（令和2年3月末時点）

エリア別の認定者数を3年前と比較すると、北エリアで100人(18.6%)、中央エリアで65人(17.4%)、南エリアで125人(29.2%)増加しており、南エリアの増加が顕著です。

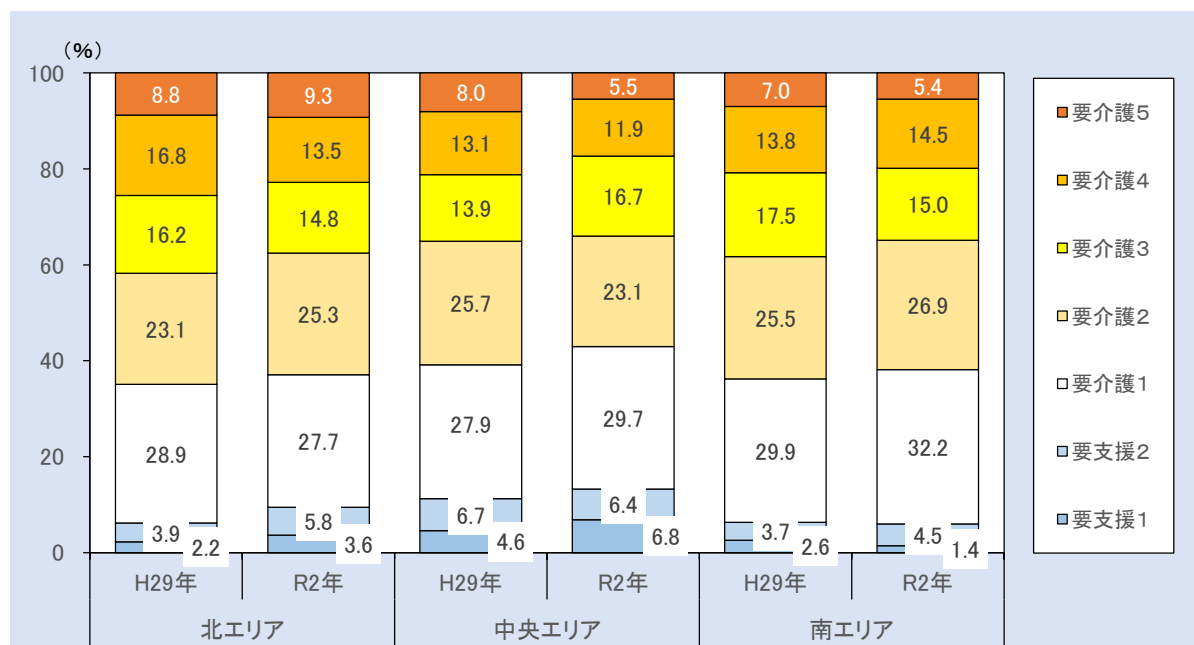
エリア別に要介護度別構成比をみると、中央エリアで軽度者の割合が比較的高い一方、要介護4・5の重度者の割合が低くなっています。

図表 エリア別認定者数(平成29年、令和2年)



資料:和光市資料から作成(各年3月末時点)

図表 エリア別要介護度別構成比(平成29年、令和2年)

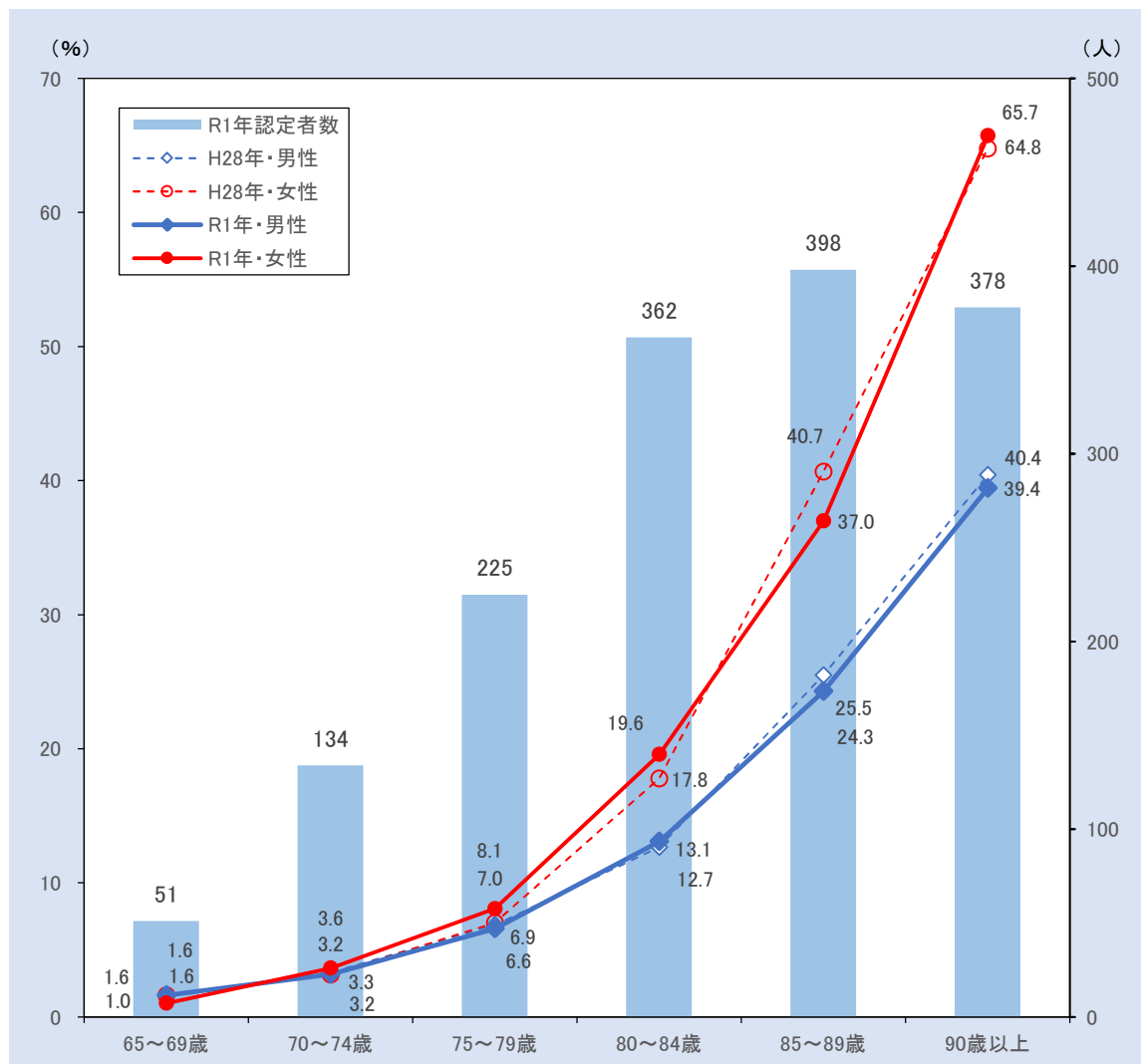


資料:和光市資料から作成(各年3月末時点)

3 年齢階級別認定率

和光市では、令和元年にかけて第1号被保険者全体の認定率が上昇していますが、認定率を年齢階級別にみたのが下の図表です。最も認定者数の多い85～89歳では、3年前に比べて男女ともに認定率が低下しています。

図表 性・年齢階級別認定率

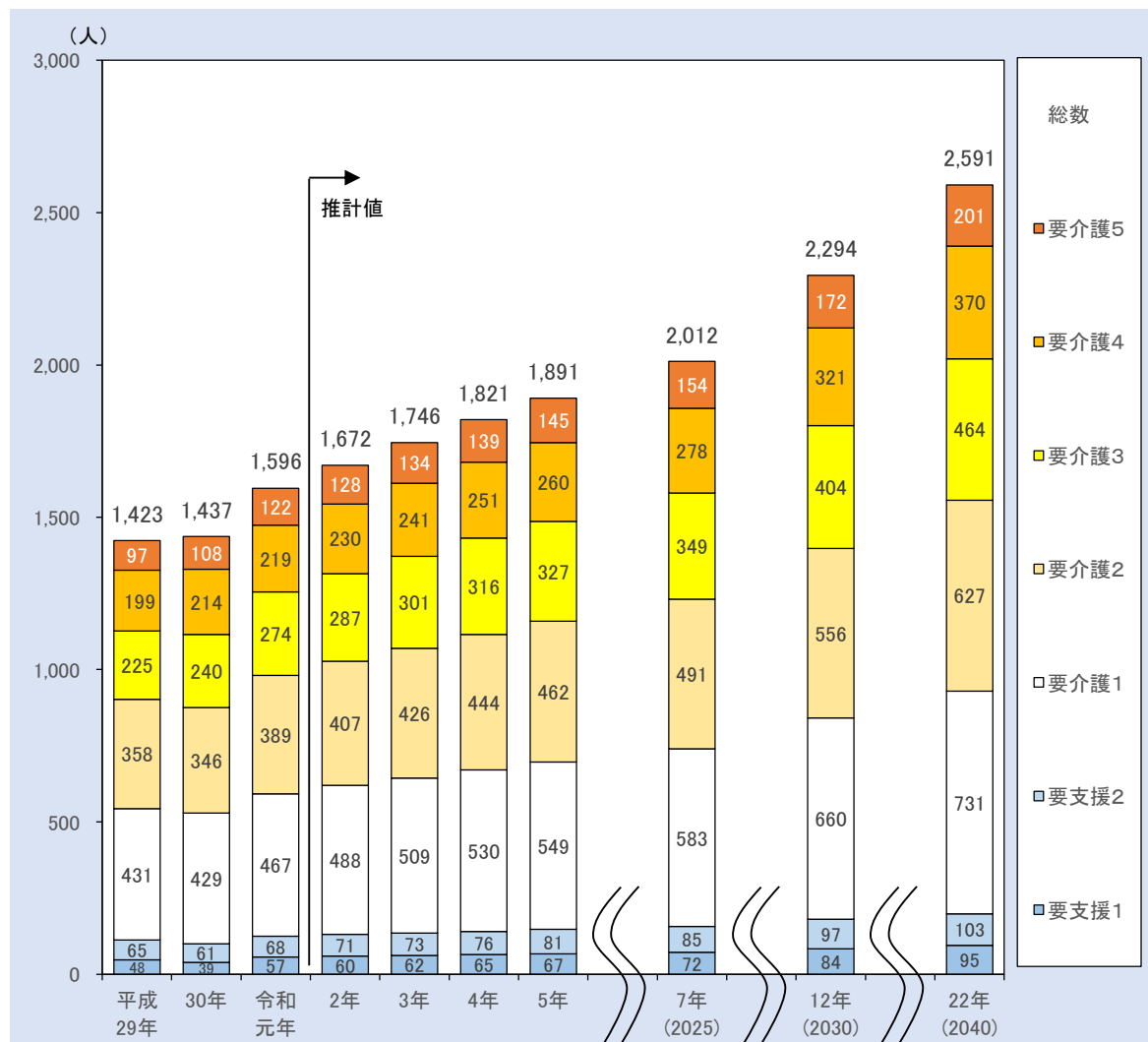


資料：和光市資料から作成(各年9月末時点)

4 要介護（要支援）認定者数の推計の試算

令和元年の性別・年齢階級別認定率に、将来の性別・年齢階級別の推計人口を乗じることにより、今後の要介護（要支援）認定者数の推計（試算）を行うと、今後高齢化が進むとともに要介護（要支援）認定者数が増加し続け、団塊の世代（昭和22～24年生まれ）が75歳以上となる令和7（2025）年に2,000人を超えた後、団塊ジュニア世代（昭和46～49年生まれ）が高齢者となる令和22（2040）年には2,500人を超えるとの試算結果となっています。

図表 認定者数推計結果



資料：人口推計結果などから推計(各年9月末時点)

Ⅲ 介護保険事業の現状

1 全体の利用状況

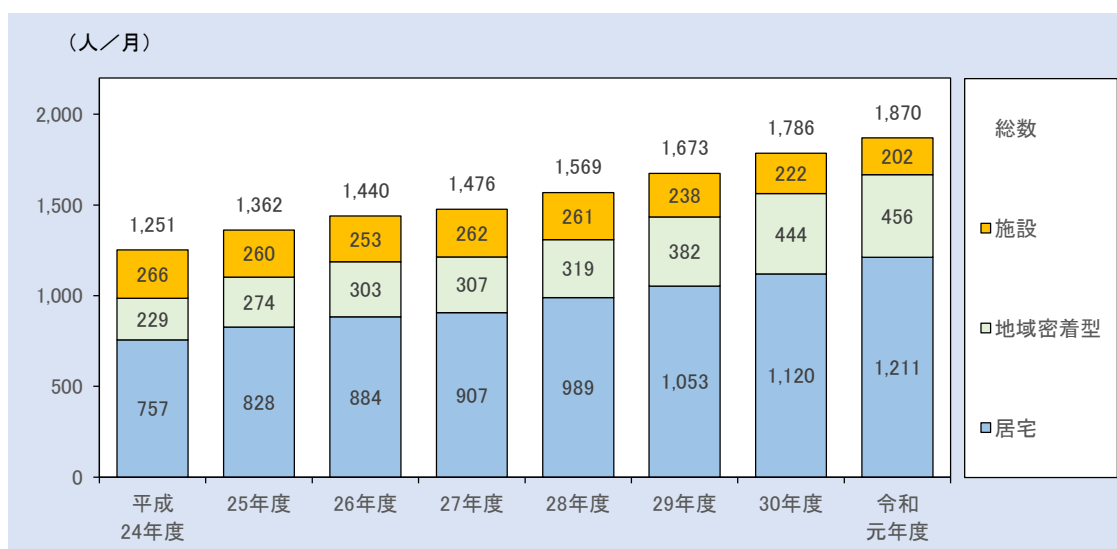
(1) 受給者数

介護保険の受給者数をみると、認定者数の増加と歩調を合わせて増加基調が続いています。

居宅、地域密着型、施設の各サービス区分ごとの受給者数をみると、居宅サービス、地域密着型サービスでは増加基調が続いていますが、施設サービスではここ数年減少傾向が顕著になっています。

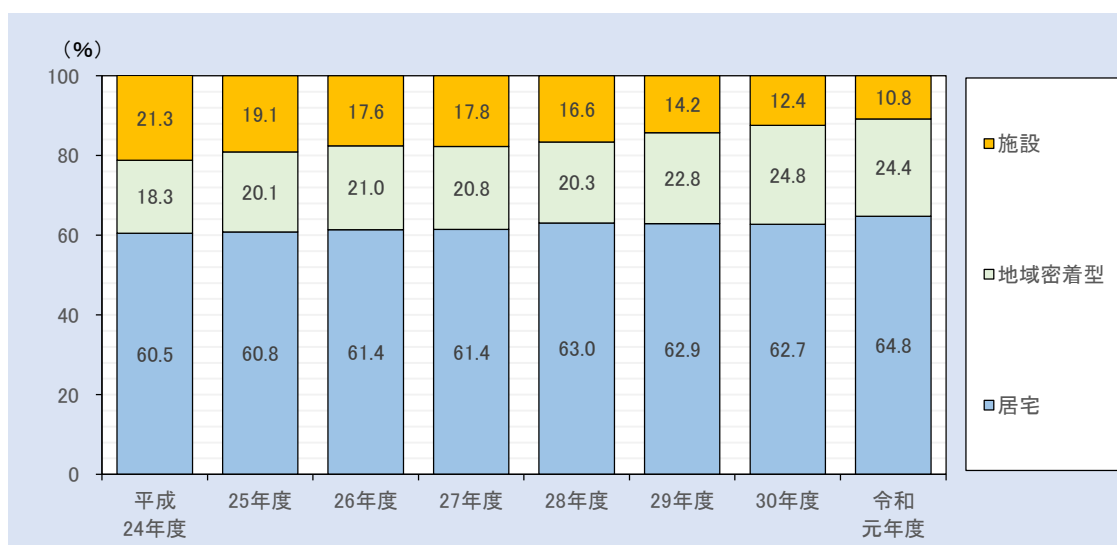
それぞれの構成比をみると、長期的には施設サービスの割合が低下する一方、居宅サービス、密着型サービスの割合が伸びています。

図表 サービス区分別受給者数の推移（月平均）



資料：和光市「介護保険事業状況報告年報」から作成（介護保険関係については以下

図表 サービス区分別受給者割合の推移（月平均）



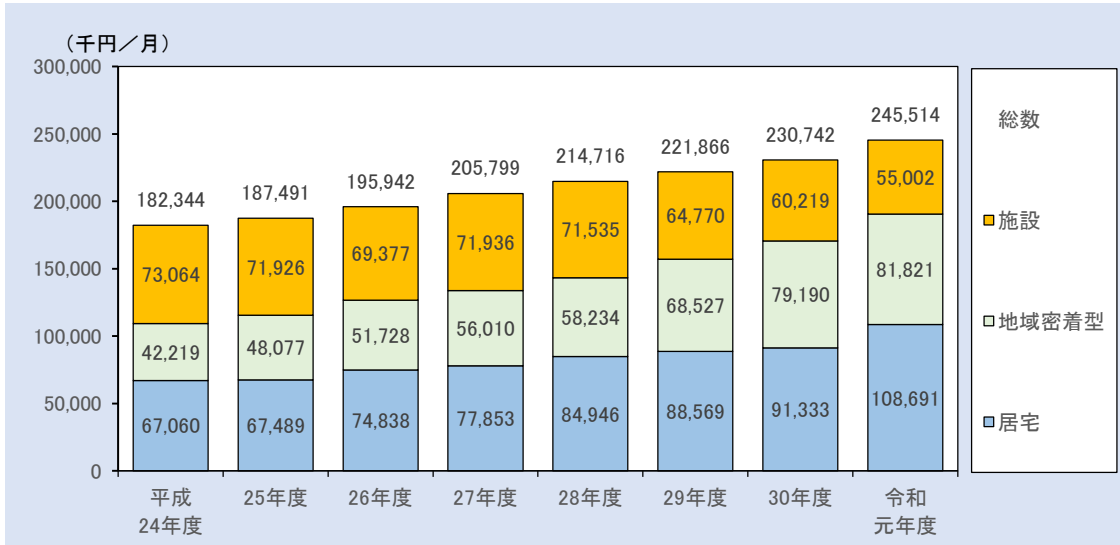
(2) 給付費

介護保険の給付費をみると、総額では受給者数と同様、一貫して増加傾向が続いています。

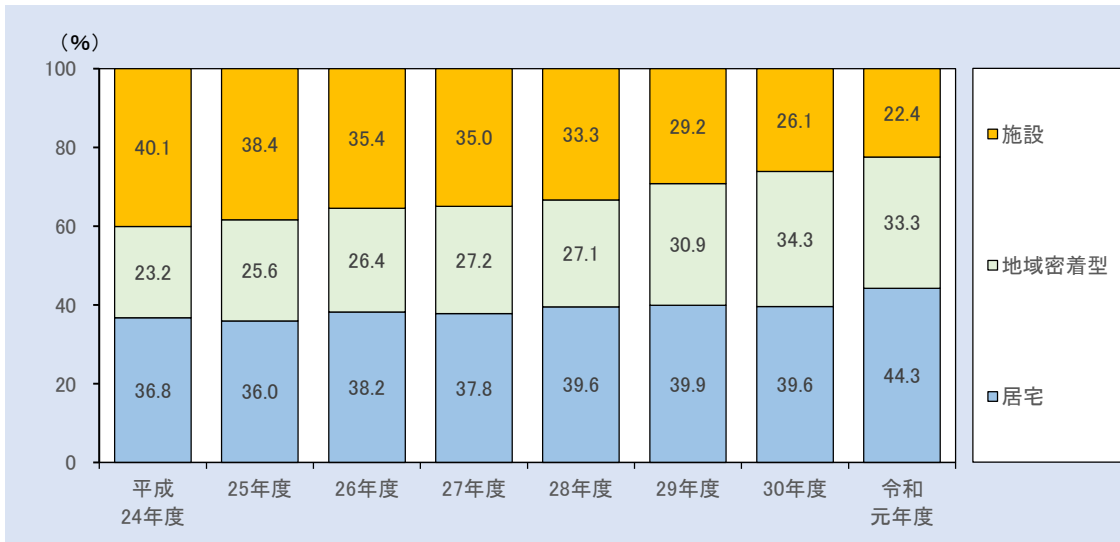
サービス区分ごとにみると、受給者数と同様、居宅サービス、地域密着型サービスは増加基調が顕著ですが、施設サービスは平成 28 年度以降減少傾向が続いています。

構成比をみても、居宅サービス、地域密着型サービスは増加基調が顕著ですが、施設サービスはそのシェアを落としています。

図表 サービス区分別給付費の推移（月平均）



図表 サービス区分別給付費割合の推移（月平均）

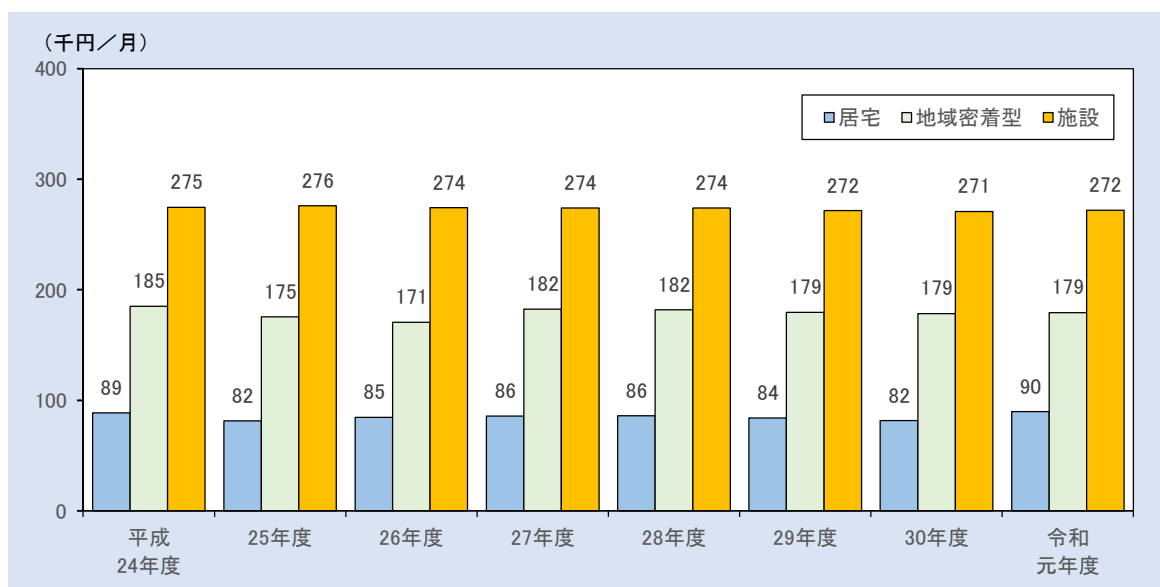


(3) 1人当たりの給付費

サービス区分ごとの1人当たりの給付費（月平均）をみると、居宅サービスでは、令和元年度に90千円と、前年度に比べて8千円の増加となっています。

地域密着型サービス、施設サービスでは、ここ3年間それぞれ179千円、271～272千円と安定的に推移しています。

図表 サービス区分別1人当たりの給付費の推移（月平均）



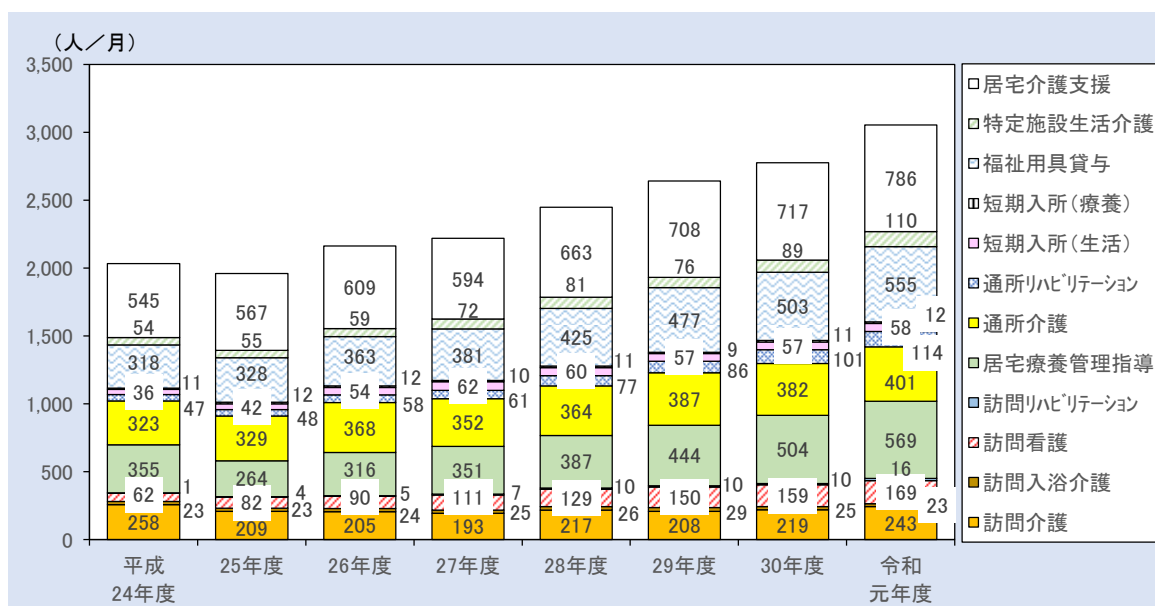
2 居宅サービス

(1) 受給者数

令和元年度の居宅サービスの種類別受給者数（月平均）をみると、「居宅介護（介護予防支援）」以外では「居宅療養管理指導」が569人で最も多く、次いで「福祉用具貸与」（555人）、「通所介護」（401人）、「訪問介護」（243人）、「訪問看護」（169人）などの順となっています。

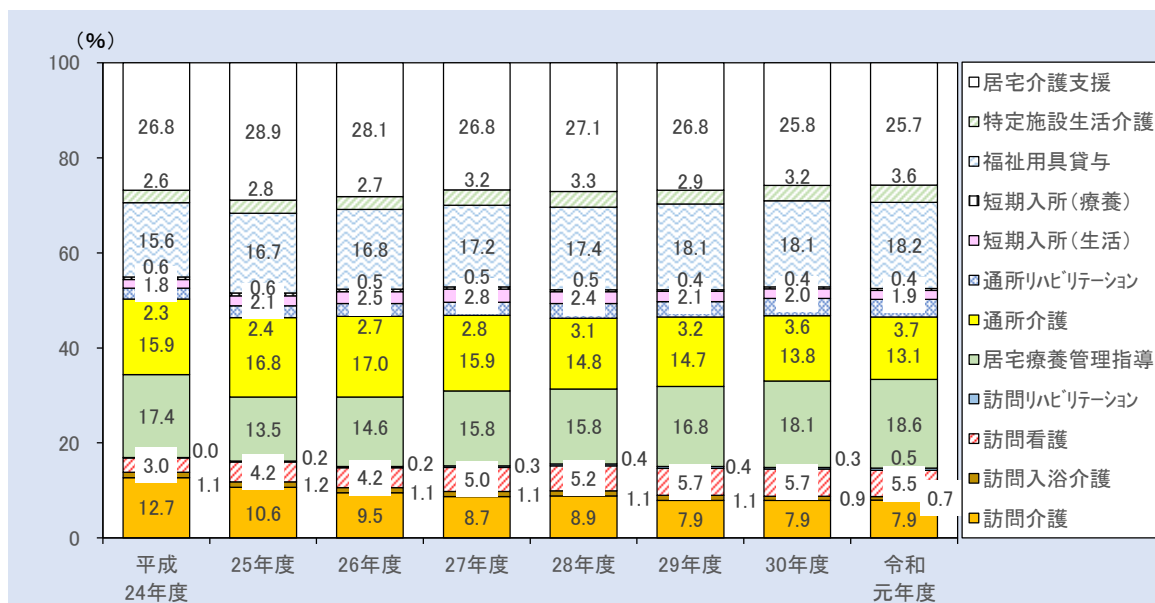
ほとんどの居宅サービスでサービス利用が増えています。特に「居宅療養管理指導」や「通所リハビリテーション」、「訪問看護」などの医療系のサービスの伸びが顕著になっています。

図表 サービス別受給者数の推移（月平均）



注: 令和元年度については、令和元年5月～令和2年3月までの介護保険事業状況報告月報から算出

図表 サービス別受給者割合の推移（月平均）

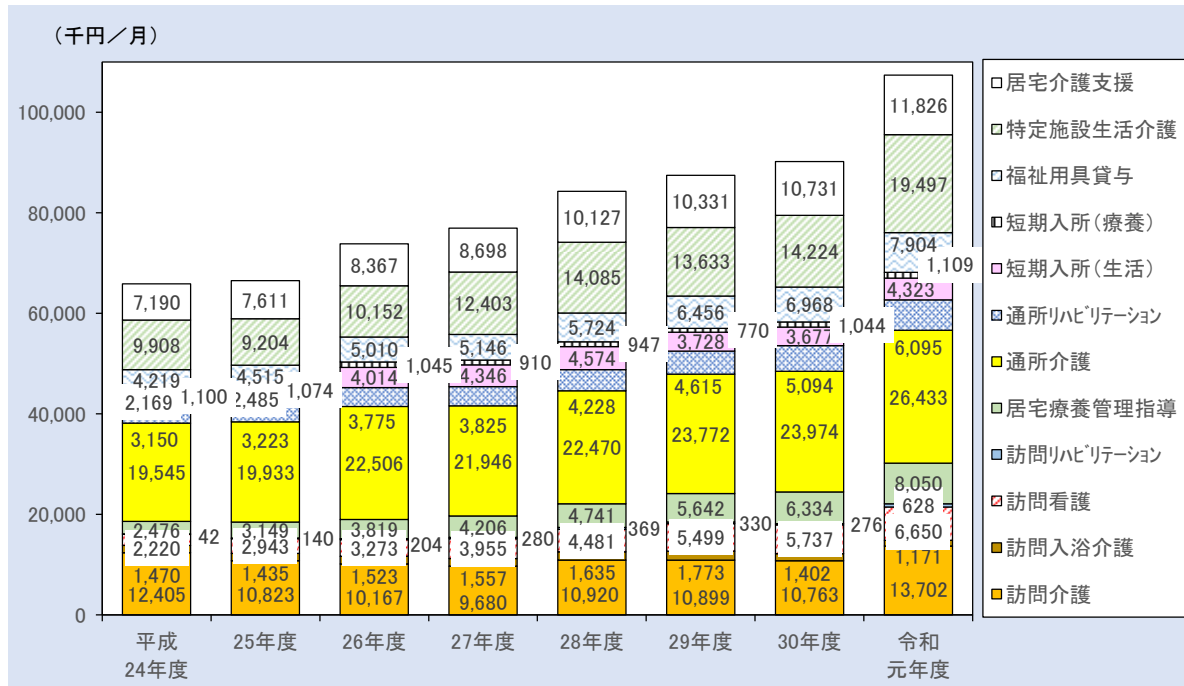


(2) 給付費

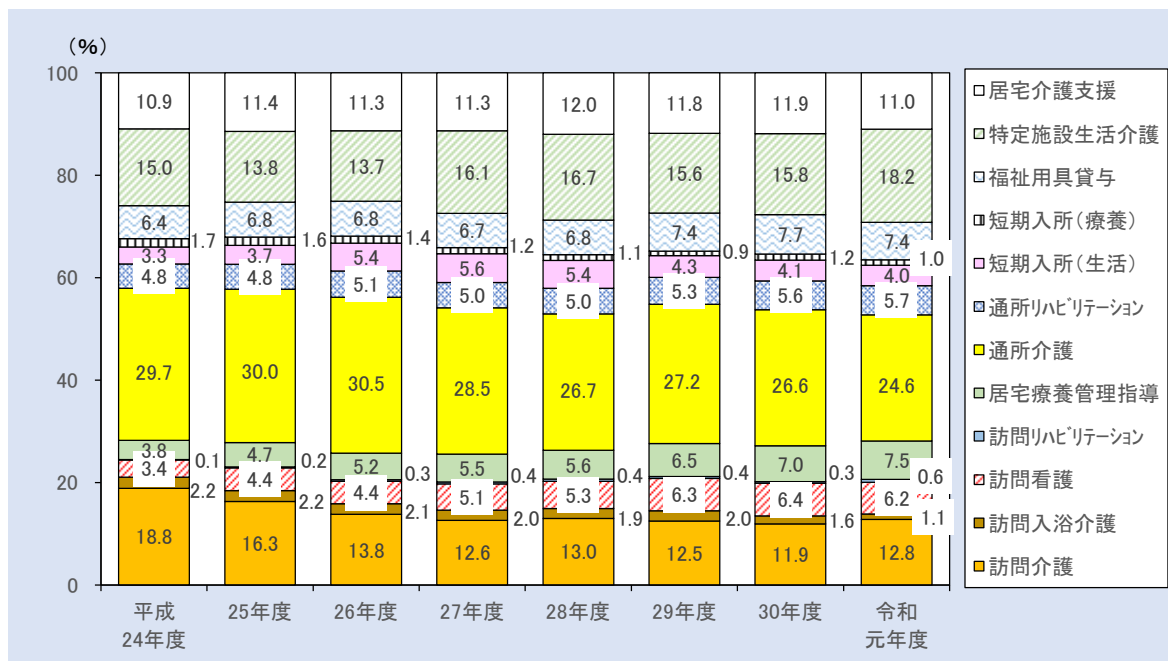
居宅サービスの種類別給付費（月平均）をみると、令和元年度では「通所介護」が26,433千円で最も多く、次いで「特定施設入居者生活介護」（19,497千円）、「訪問介護」（13,702千円）などの順となっています。

令和元年度になり、「特定施設入居者生活介護」や「訪問介護」、「居宅療養管理指導」の給付費の伸びが顕著になっています。

図表 サービス別給付費の推移（月平均）



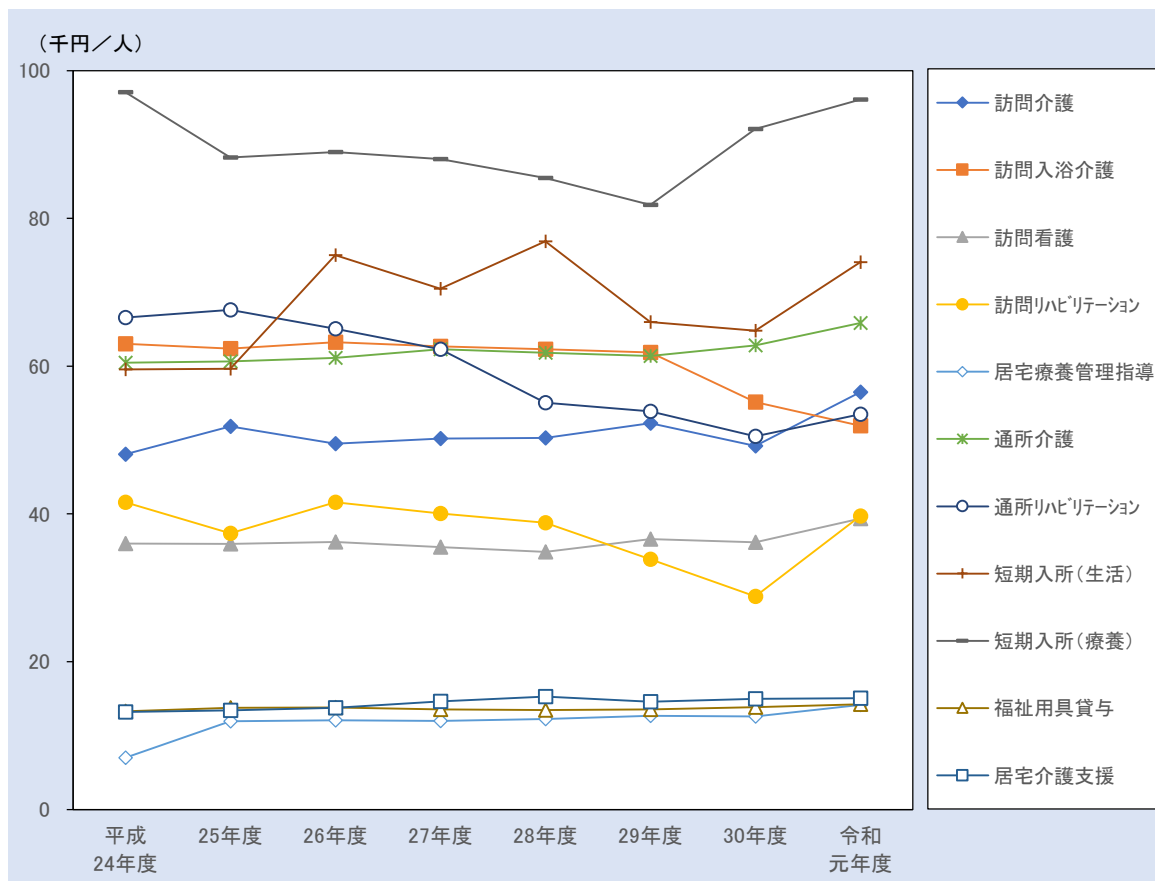
図表 サービス別給付費割合の推移（月平均）



(3) 1人当たりの給付費

各サービス種類別に1人当たりの月平均給付費の推移をみると、ここ数年「短期入所療養介護」や「通所介護」が上がっている一方、「訪問入浴介護」は下がっています。

図表 サービス別1人当たりの給付費の推移（月平均）



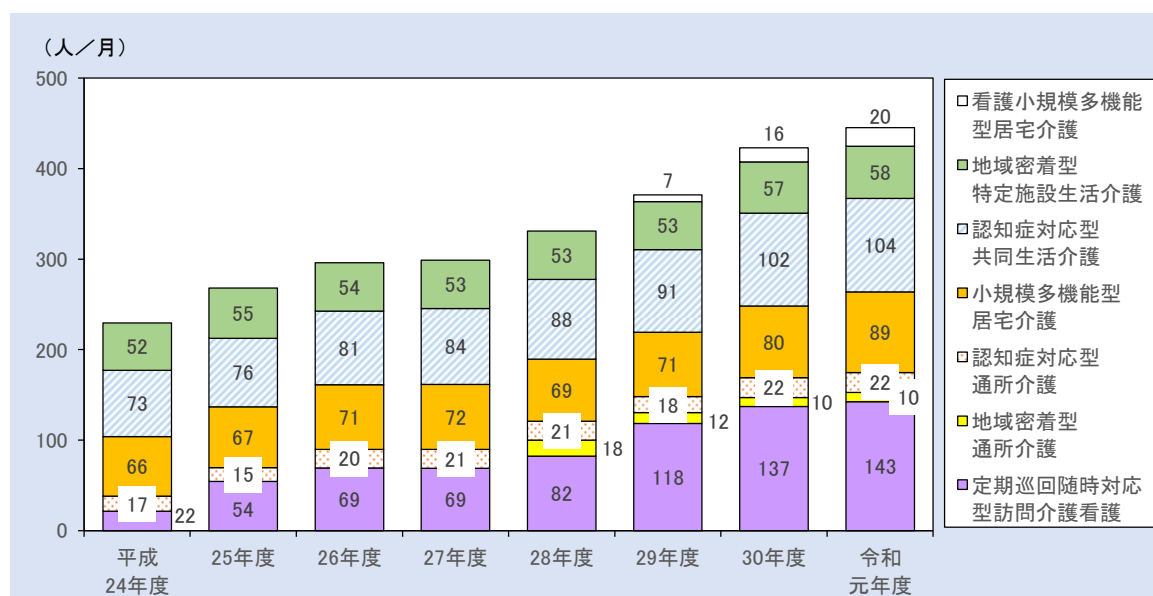
3 地域密着型サービス

(1) 受給者数

令和元年度の地域密着型サービスの種類別受給者数（月平均）をみると、「定期巡回随時対応型訪問介護看護」が143人で最も多く、次いで「認知症対応型共同生活介護」（104人）、「小規模多機能型居宅介護」（89人）、「地域密着型特定施設入居者生活介護」（58人）などが続いています。

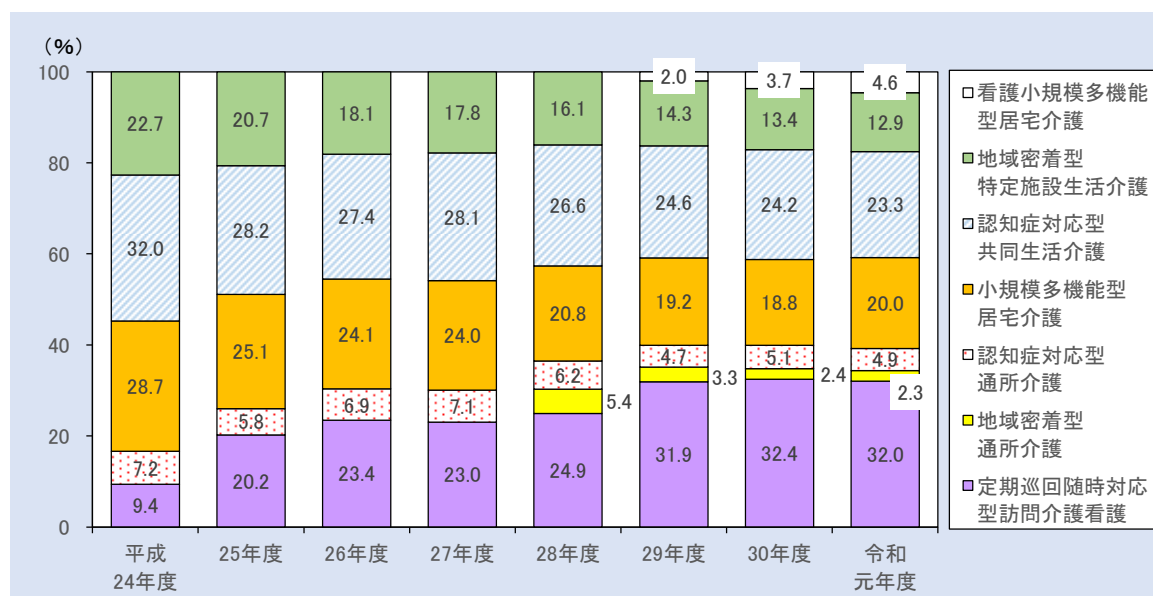
ほとんどの地域密着型サービスの利用が増えています。特に「定期巡回随時対応型訪問介護看護」の伸びが顕著になっています。

図表 サービス別受給者数の推移（月平均）



注: 令和元年度については、令和元年5月～令和2年3月までの介護保険事業状況報告月報から算出

図表 サービス別受給者割合の推移（月平均）

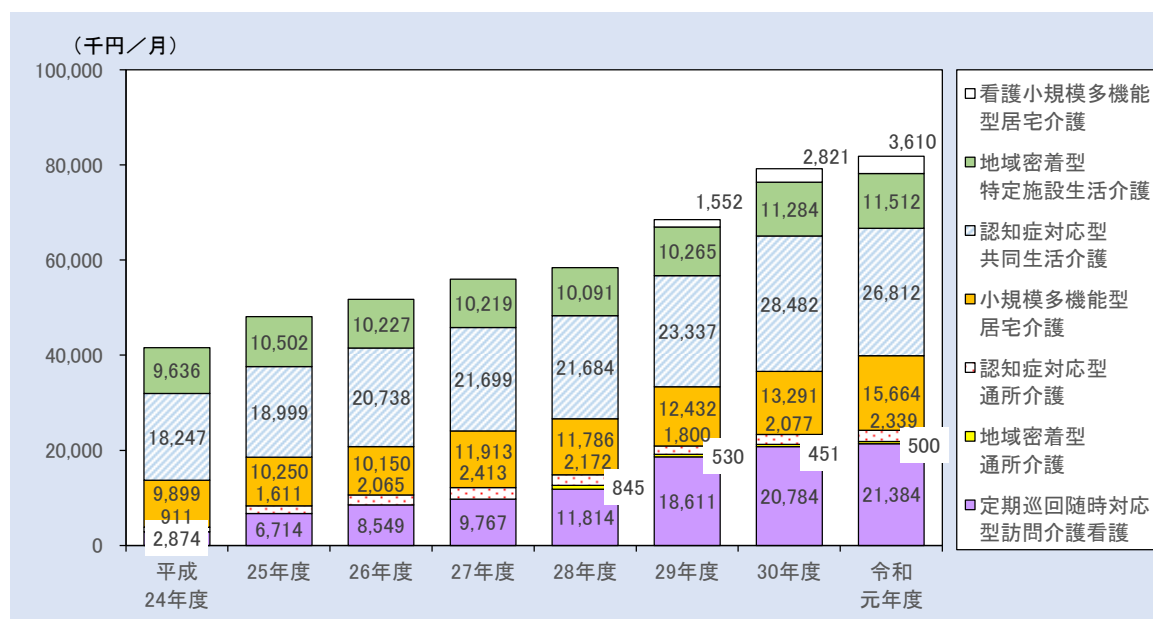


(2) 給付費

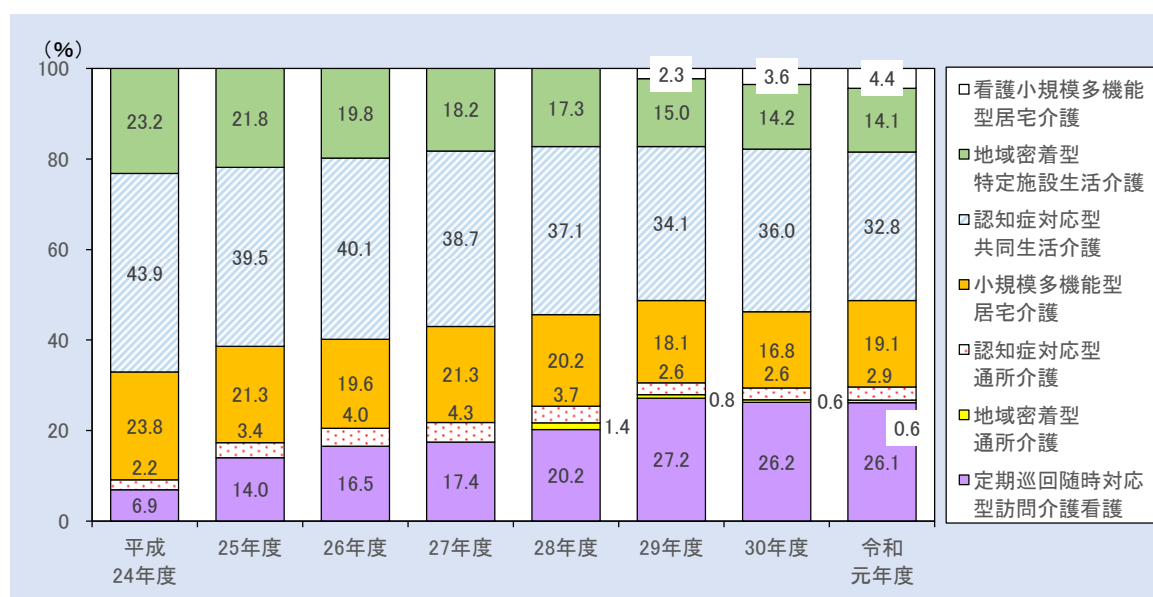
地域密着型サービスの種類別給付費（月平均）をみると、令和元年度では「認知症対応型共同生活介護」が26,812千円で最も多く、次いで「定期巡回随時対応型訪問介護看護」（21,384千円）、「小規模多機能型居宅介護」（15,664千円）、「地域密着型特定施設入居者生活介護」（11,512千円）などの順になっています。

ほとんどの地域密着型サービスの給付費が増えています。特に「定期巡回随時対応型訪問介護看護」の伸びが顕著になっています。

図表 サービス別給付費の推移（月平均）



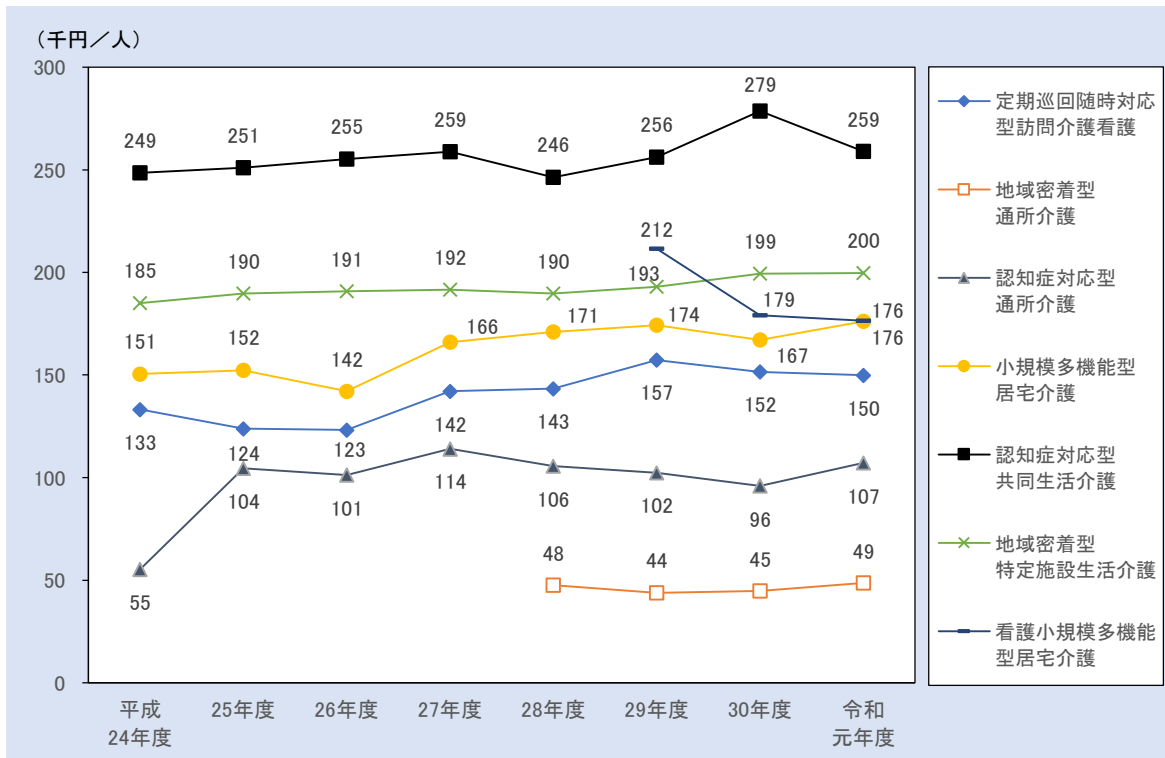
図表 サービス別給付費割合の推移（月平均）



(3) 1人当たりの給付費

各サービス種類別に1人当たりの月平均給付費の推移をみると、「小規模多機能型居宅介護」や「定期巡回随時対応型訪問介護看護」は、ここ数年それぞれ17万円前後、15万円台で推移しており、長期的にみると単価が上がっています。

図表 サービス別1人当たりの給付費の推移（月平均）



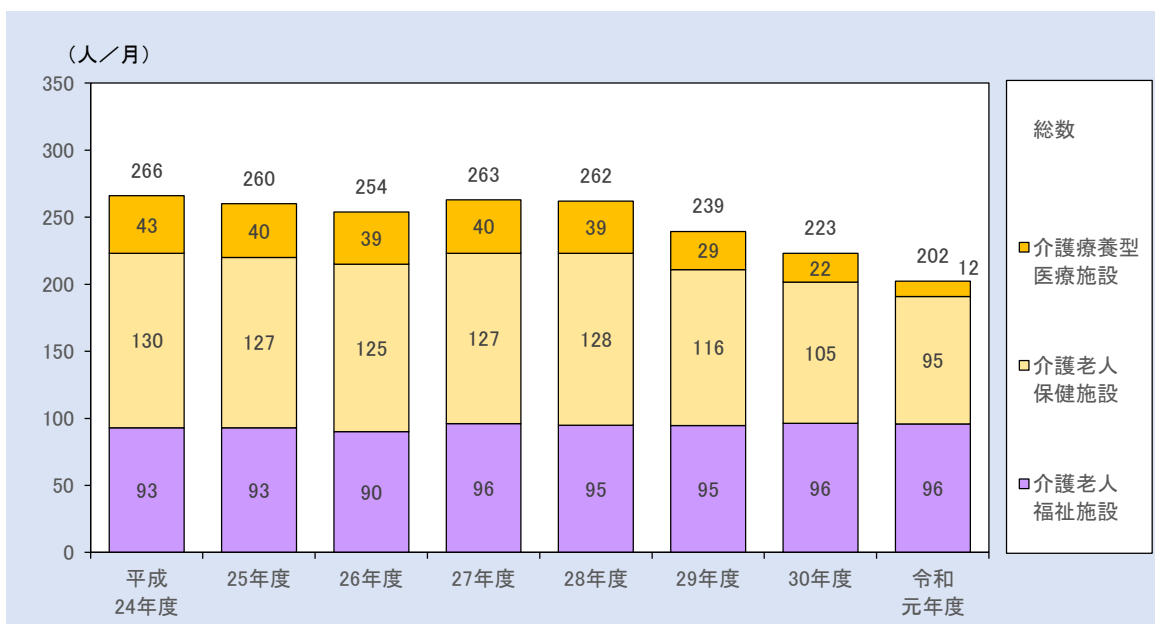
4 施設サービス

(1) 受給者数

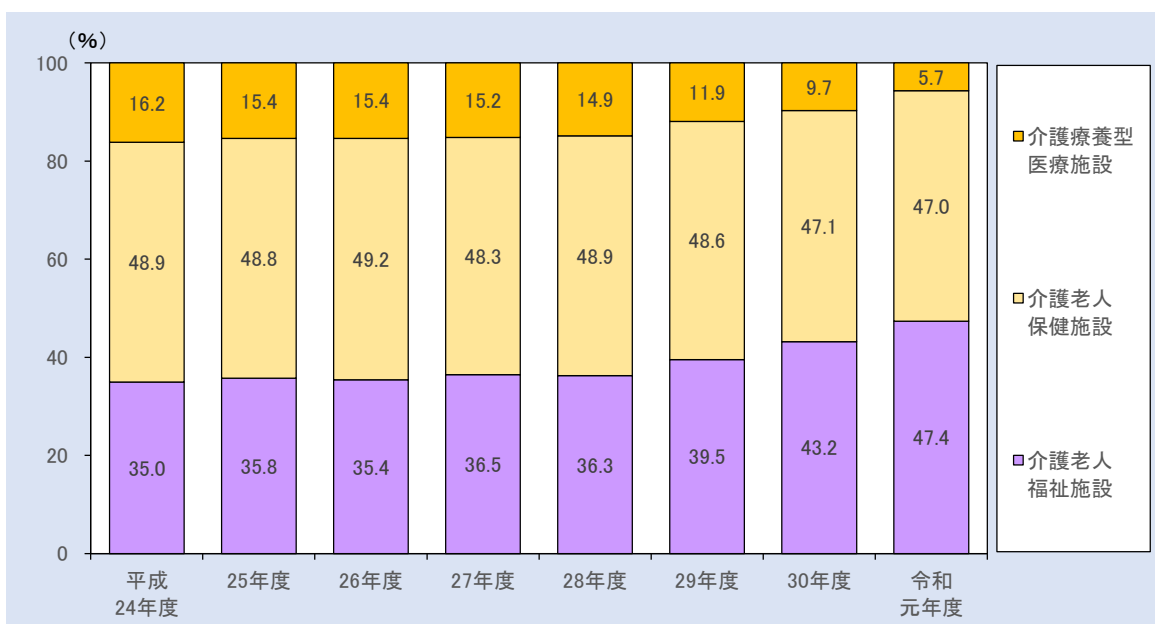
施設サービスの種類別受給者数をみると、令和元年度で「介護老人福祉施設」、「介護老人保健施設」がそれぞれ96人、95人となっており、「介護療養型医療施設」は12人とどまっています。

令和5年度末までに廃止される「介護療養型医療施設」の利用が急激に少なくなってきているほか、平成28年度までは安定的に利用されてきた「介護老人保健施設」の利用がここ数年落ちてきており、全体的に利用者の施設離れの傾向がうかがえます。

図表 サービス別受給者数の推移（月平均）



図表 サービス別受給者割合の推移（月平均）

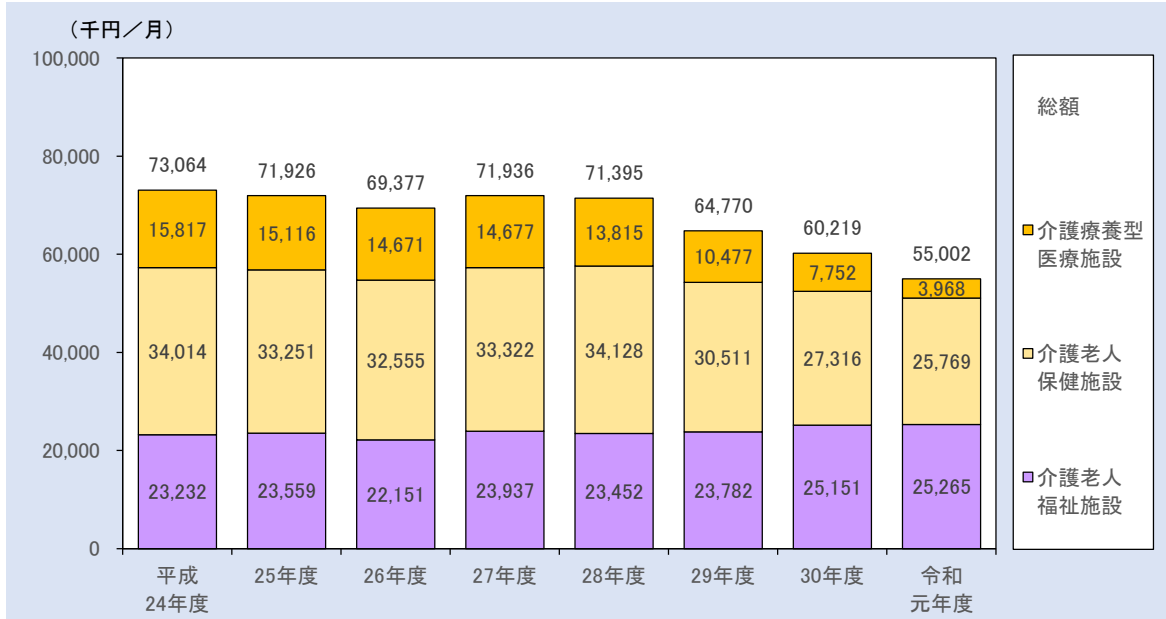


(2) 給付費

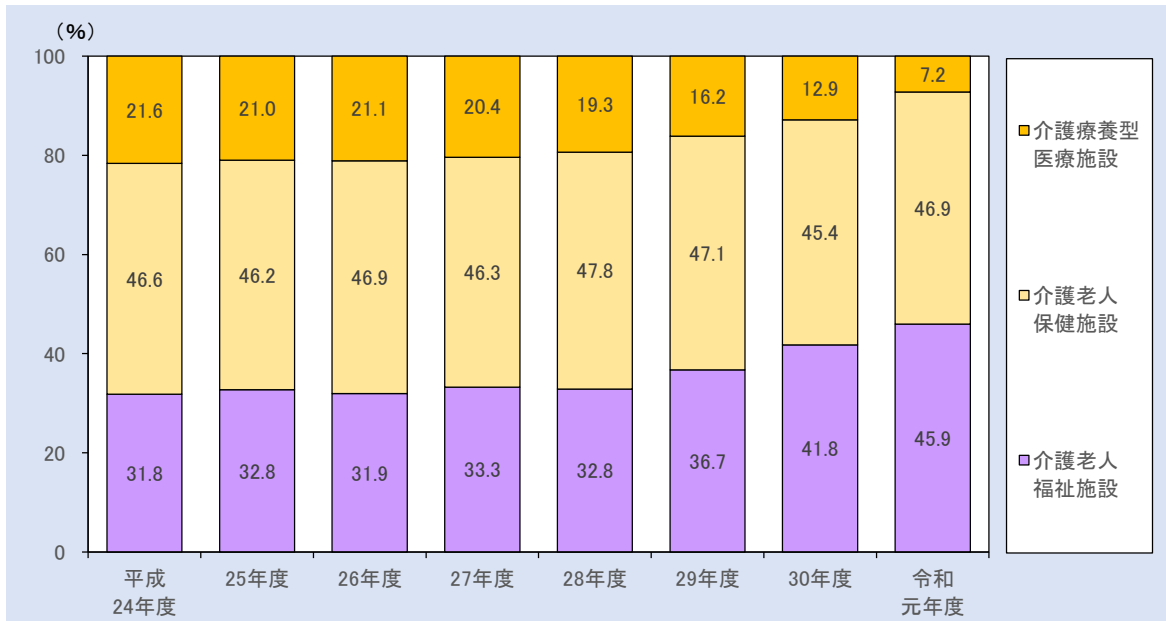
施設サービスの種類別給付費（月平均）をみると、令和元年度で「介護老人福祉施設」、「介護老人保健施設」がそれぞれ 25 百万円台となっており、「介護療養型医療施設」は 4 百万円前後にとどまっています。

それぞれの構成比をみると、「介護療養型医療施設」の割合が急激に落ちてきている一方、「介護老人福祉施設」の割合が相対的に伸びています。

図表 サービス別給付費の推移（月平均）



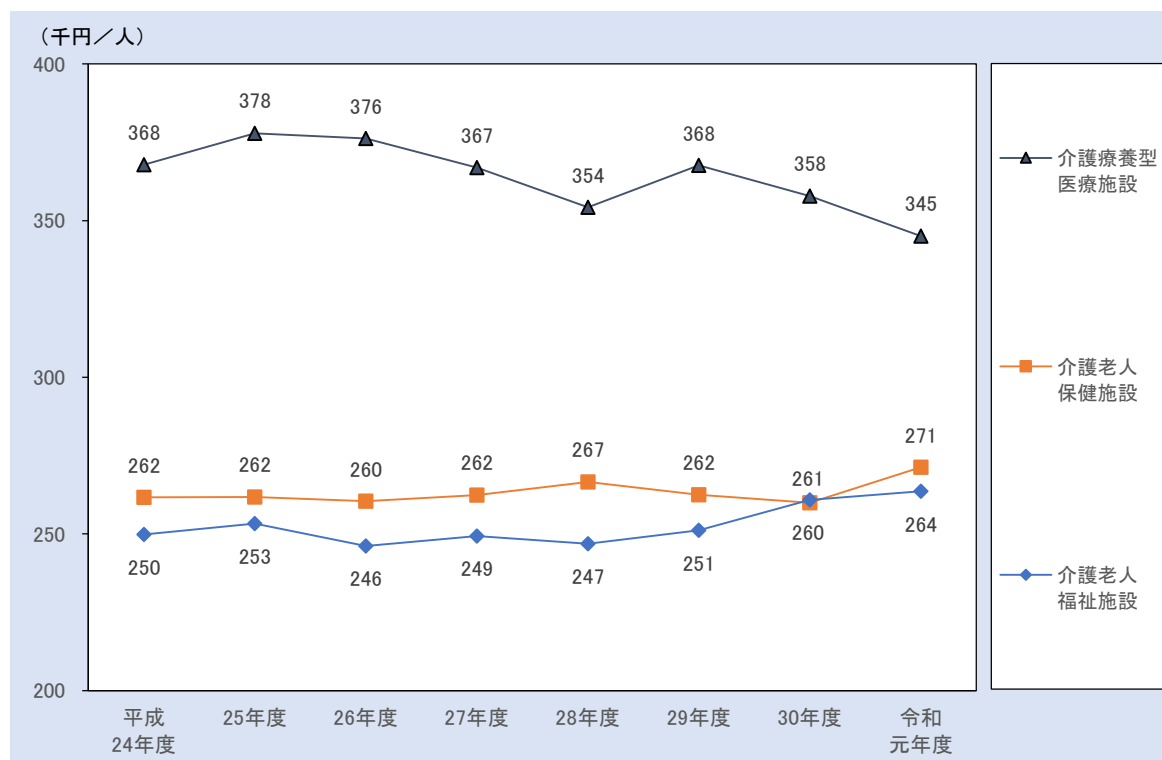
図表 サービス別給付費割合の推移（月平均）



(3) 1人当たりの給付費

各サービス種類別に1人当たりの月平均給付費の推移をみると、「介護老人福祉施設」は令和元年度に264千円とここ数年上昇基調にある一方、「介護療養型医療施設」は、同じく345千円と単価が下がっています。

図表 サービス別1人当たりの給付費の推移（月平均）



5 計画との比較

(1) 居宅サービス

訪問サービスでは、訪問リハビリテーションが令和元年度に計画比 143.8%となっていますが、それ以外のサービスは計画値を下回っています。

通所サービスでは、通所リハビリテーションが平成30年度、令和元年度ともに計画値を10%以上上回る利用がされています。

それ以外のサービスでは、特定施設入居者生活介護が令和元年度に計画比 119.8%と、利用が大きく伸びています。

① 訪問サービス

(人/月)

		訪問介護			訪問入浴介護		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付				0	0	
	介護給付	219	243		25	23	
	計	219	243		25	23	
計画	予防給付				0	0	0
	介護給付	266	282	48	37	41	43
	計	266	282	48	37	41	43
計画比	計	82.2%	86.0%		68.7%	55.0%	

		訪問看護			訪問リハビリテーション		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付	10	11		0	0	
	介護給付	149	158		9	15	
	計	159	169		10	16	
計画	予防給付	11	12	12	1	1	1
	介護給付	157	165	174	10	10	11
	計	168	177	186	11	11	12
計画比	計	94.4%	95.4%		87.1%	143.8%	

		居宅療養管理指導		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付	24	28	
	介護給付	480	541	
	計	504	569	
計画	予防給付	27	28	29
	介護給付	892	949	1,006
	計	919	977	1,035
計画比	計	54.8%	58.2%	

資料：和光市「介護保険事業状況報告」

注：令和元年度の受給者数は、介護保険事業状況報告月報（令和元年5月～令和2年3月）から算出

② 通所サービス

		通所介護			通所リハビリテーション		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付		14		9	8	
	介護給付	382	388		92	106	
	計	382	388		101	114	
計画	予防給付				8	8	9
	介護給付	436	458	483	80	84	89
	計	436	458	483	88	92	98
計画比	計	87.6%	84.7%		114.6%	123.8%	

③ 短期入所サービス

		短期入所生活介護			短期入所療養介護		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付	1	1		0	0	
	介護給付	56	57		11	12	
	計	57	58		11	12	
計画	予防給付	1	1	1	0	0	0
	介護給付	69	73	77	11	13	13
	計	70	74	78	11	13	13
計画比	計	81.1%	78.9%		103.0%	88.8%	

④ その他

		福祉用具貸与			特定福祉用具購入		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付	25	24		2	2	
	介護給付	478	531		11	8	
	計	503	555		12	9	
計画	予防給付	37	40	42	3	3	3
	介護給付	494	522	553	10	10	10
	計	531	562	595	13	13	13
計画比	計	94.7%	98.7%		94.9%	72.4%	

		住宅改修			特定施設入居者生活介護		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付	3	2		14	17	
	介護給付	9	8		75	93	
	計	12	10		89	110	
計画	予防給付	3	3	3	11	11	12
	介護給付	7	7	7	73	81	81
	計	10	10	10	84	92	93
計画比	計	120.8%	97.5%		106.2%	119.8%	

		居宅介護(介護予防)支援		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付	36	34	
	介護給付	681	753	
	計	717	786	
計画	予防給付	49	53	55
	介護給付	720	759	801
	計	769	812	856
計画比	計	93.2%	96.8%	

(2) 地域密着型サービス

地域密着型サービスの令和元年度の利用状況をみると、地域密着型通所介護は計画値を下回っていますが、それ以外のサービスは計画値以上の利用がされています。

特に定期巡回・随時対応型訪問介護看護、(看護)小規模多機能型居宅介護は利用が伸びています。

		定期巡回・随時対応型訪問介護看護			地域密着型通所介護		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付						
	介護給付	137	143		10	10	
	計	137	143		10	10	
計画	予防給付						
	介護給付	119	126	141	13	13	13
	計	119	126	141	13	13	13
計画比	計	115.3%	113.2%		77.6%	79.0%	

		認知症対応型通所介護			小規模多機能型居宅介護		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付	0	0		10	12	
	介護給付	22	22		70	77	
	計	22	22		80	89	
計画	予防給付	0	0	0	10	11	12
	介護給付	20	22	23	64	67	71
	計	20	22	23	74	78	83
計画比	計	108.3%	99.2%		107.4%	114.0%	

		認知症対応型共同生活介護			地域密着型特定施設入居者生活介護		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付	0	0				
	介護給付	102	104		57	58	
	計	102	104		57	58	
計画	予防給付	0	0	0			
	介護給付	92	96	99	53	56	58
	計	92	96	99	53	56	58
計画比	計	111.1%	107.9%		106.8%	102.9%	

		看護小規模多機能型居宅介護		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付			
	介護給付	16	20	
	計	16	20	
計画	予防給付			
	介護給付	9	9	9
	計	9	9	9
計画比	計	175.0%	227.3%	

(3) 施設サービス

施設サービスの令和元年度の利用状況をみると、介護老人福祉施設、介護療養型医療施設はほぼ計画値に近い利用がされていますが、介護老人保健施設は、計画値を2割以上下回っています。

		介護老人福祉施設			介護老人保健施設		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付						
	介護給付	96	96		105	95	
	計	96	96		105	95	
計画	予防給付						
	介護給付	96	96	96	126	126	126
	計	96	96	96	126	126	126
計画比	計	100.4%	99.8%		83.4%	75.4%	

		介護療養型医療施設			介護医療院		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績	予防給付						
	介護給付	22	12		0	0	
	計	22	12		0	0	
計画	予防給付						
	介護給付	12	12	12	0	0	4
	計	12	12	12	0	0	4
計画比	計	180.6%	95.8%		—	—	